

目 次

第1章 計画策定の背景

- 1 子どもの読書の意義 3
- 2 国・北海道の動向 3～4
- 3 余市町の動向 4～5

第2章 計画の基本的な考え方

- 1 計画の目的 6
- 2 取組みの指針 6
- 3 計画の対象 6
- 4 計画の期間 6
- 5 読書活動の対象 6

第3章 現状と課題

- 1 家庭・地域 7
- 2 幼稚園、保育所（園）、その他施設 7～8
- 3 学校 8～9
- 4 図書館 9

第4章 推進目標及び推進項目の具体的な取組み

- 1 子どもを読書好きにするための取組みの推進 10
- 2 子どもの読書活動の推進に向けた働きかけ 11
- 3 余市町図書館や学校図書館における図書整備 11～12
- 4 推進体系図 13

資料

- 第3次余市町子どもの読書活動推進計画にかかる読書アンケート調査集計結果の概要 16
- 読書アンケート調査集計結果（幼稚園・保育所・保育園等保護者） 17
- 読書アンケート調査集計結果（小学生） 23
- 読書アンケート調査集計結果（中学生） 28
- 読書アンケート調査集計結果（高校生） 33
- 現場担当者アンケート（小学校・中学校・高校） 38
- 現場担当者アンケート（幼稚園・保育所（園）・他施設） 39
- 学校教諭アンケート 40
- パブリックコメントで寄せられた意見等に対する考え方 41
- 諮問書 42
- 答申書 43
- 第3次余市町子どもの読書活動推進計画策定経過 44

第1章 計画策定の背景

1 子どもの読書の意義

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条）です。

しかし、近年の情報化の進展や様々な通信メディアの発達・普及に伴い、子どもたちを取巻く社会環境は変化し、その中で子どもたちの読書離れが指摘されており、社会全体で子どもの読書活動の一層の推進を図る必要があります。

すべての子どもがそれぞれの成長過程に応じて、自ら読書活動を行うことができるよう、積極的にその環境づくりを進め、未来を担う子どもたちに、本との触れ合いを通し、読書の楽しさを伝えるための施策を計画的に進めることが必要です。

2 国・北海道の動向

(1) 国の動向

平成13年12月に「すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」ことを基本理念とした「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されました。

この法律で、都道府県及び市町村は、「子どもの読書活動推進計画」を策定するよう努めることとされました。

国は、平成14年8月に「第1次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定後、おおむね5年ごとに新たな計画を策定し、令和5年3月に第5次基本計画が策定されています。

こうした中、平成26年、学校図書館法の一部改正が行われ、学校司書※1配置が努力義務化され、また、平成28年には文部科学省が、学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方を示した「学校図書館ガイドライン」が定められています。

平成29年3月に、新しい小学校及び中学校学習指導要領を告示し、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に活かすことなど、学校図書館に期待される役割が示されています。

その後、令和元年6月に視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）の公布・施行があり、令和元年12月にはGIGAスクール構想※2の公表と推進本部設置により教育環境のICT化が進められ、令和4年

1月には第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」の策定を通じ子どもの読書環境の整備が進められており、令和5年3月策定の「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の中には図書館及び学校図書館のDX化を進めることが示されております。

※1 学校司書：学校図書館の利用の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員。学校図書館の日常の運営・管理、学校図書館を活用した教育活動の支援を行う。

※2 GIGA スクール構想：1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現することを目指した文部科学省の施策。

(2) 北海道の動向

北海道では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成15年11月に国の「第1次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を基本として、第1次計画となる「北海道子どもの読書活動推進計画」策定以降、おおむね5年ごとに新たな計画を策定しており、令和5年3月には「第5次北海道子どもの読書活動推進計画」を策定し、それに基づき北海道内の読書普及活動が進められています。

また、北海道の事業として令和3年4月より地学協働※3活動実証事業（CLASSプロジェクト）を開始しております。

※3 地学協働：コミュニティ・スクールや地域と学校がパートナーとして連携・協働して行う地域学校協働活動の一体的な展開を目指した道教委の施策。

3 余市町の動向

平成3年に後志管内の町村で初の図書館として余市町図書館が開館し、乳幼児から高齢者まで全世代を対象に地域の情報拠点として、資料提供をはじめ各種の活動を続けてきました。

蔵書は、中央公民館図書室から一部引き継いだものも含め、現在10万7千冊、うち児童図書は3万4千冊となりました。

これまで多くの町民に利用されてきましたが、人口減少のなかで、近年は利用者が減少傾向にあります。しかし、平成22年に寄贈された移動図書館用車両を活用して、白岩町、豊浜町などの遠隔地への定期的なサービスや町内小中学校に出向いて図書の貸出を行うなど、施設内に留まらない図書館サービスを広く提供しています。

町内小中学校については、学校図書館法に基づき、学級数が12学級以上の学校には司書教諭※4が配置されています。また、各学校がボランティア等と連携・協力し、授業時間や休み時間を活用した読書活動が実施されています。

平成27年度には第1次となる「余市町子どもの読書活動推進計画」を計画

期間は平成28年から令和2年度までとして策定し、令和2年度には計画期間を令和3年度から令和7年度までの5か年とする「第2次余市町子どもの読書活動推進計画」を策定いたしました。

令和2年度には、インターネットに接続したパソコン・タブレット端末・スマートフォン等で電子書籍をいつでも、どこでも、好きな時間に検索・貸出・閲覧・返却することが可能な電子図書館を開設し、令和3年度には図書館内でインターネットの使用を可能にする図書館利用者用Wi-Fiを導入いたしました。

※4 司書教諭：学校図書館の専門的職務を掌るためにおかれる教諭。学校図書館活用の全体計画の作成や教育課程の編成に関する他の教員への助言など、学校図書館を活用した教育活動を企画する。

第2章 計画の基本的な考え方

1 計画の目的

余市町教育委員会は、平成27年度に「余市町子どもの読書活動推進計画」を策定し、令和2年度には「第2次余市町子どもの読書活動推進計画」として計画を更新し、各計画に基づいて、これまでさまざまな取組みを実施してきました。

これらの成果や課題を分析し、今日の社会情勢も踏まえながら、読書活動のさらなる推進に向けた指針を定め、すべての子どもたちが読書に親しみ、考える力、生きる力を育むために「第3次余市町子どもの読書活動推進計画」を策定いたします。

また、本計画は法律に基づき、国・北海道の計画を踏まえ「第5次余市町総合計画」や「第7次余市町社会教育中期計画」との整合性を図ります。

2 取組みの指針

地域の実情を踏まえ、子どもたちの読書活動を推進するため、次の指針を設定します。

- ① 子どもを読書好きにするための取組みの推進<意識の啓発>
- ② 子どもの読書活動の推進に向けた働きかけ<取組みへの支援>
- ③ 余市町図書館や学校図書館における図書整備<環境整備>

3 計画の対象

本計画は、0歳からおおむね18歳までを対象とします。

4 計画の期間

令和8年4月から令和13年3月までの5年間とします。

5 読書活動の対象

本計画における読書活動の対象には、活字その他文字を用いて表現された図書などが該当し、電子書籍を含む電子資料も含まれます。

第3章 現状と課題

1 家庭・地域

家庭は、幼い子どもたちの健やかな成長のために重要な役割を担っている場所であり、本に触れる初めての場所でもあります。家庭において保護者が温かい言葉で読み聞かせを行い本に親しむことは、子どもにとって楽しい経験として蓄積され、将来にわたり積極的な読書活動の基礎になると考えられます。

図書館では、初めての絵本体験として、平成15年から「余市町ブックスタート事業」を行っています。この事業は、地域に生まれた子どもたちが、本を通して豊かな言葉と心を育ていけるように、子育て支援等に関する情報の提供と共に、初めての絵本を手渡す活動です。

本事業は余市町子育て・健康推進課と連携して、毎月の乳幼児健診（10ヵ月児健診）時に行っています。少子化により対象人数が徐々に減っていますが、これまで好評を得ており、子どもたちが本に興味を持つ機会として、今後も継続して実施すると共に、さらにブックスタートフォローアップ事業の充実と推進を図り、地域全体での子育て支援を継続していくことが必要となります。

アンケート結果によると、家庭において子どもに絵本等を読んでいる割合は多く、1歳までに多くの方が読み聞かせを行っている傾向があり、ブックスタート事業での意識啓発の成果が出ているのではないかと考えられます。また、図書館に行ったことがある人は約5割で、引き続き図書館のPRを実施していく必要があります。

多くの家庭で読み聞かせは母親が担っており、父親をはじめとする家族での読み聞かせが積極的に行われるよう保護者向けの啓発事業の展開が必要と考えます。

また、各世代においてスマートフォン・タブレットなどの電子機器の所持率が大幅に増加している傾向にあり、情報を得るためのツールとして利用され、読書率の低下や読書時間の短さにつながっていると考えられます。

その反面、電子機器の普及に伴い、かさばらず、読書の場所を選ばない電子図書館の導入により、子育てや仕事などの都合で来館できなかった方や、これまで本にあまり興味がなかった方などにも本に触れる機会が増える効果が期待され、これまでそのPRに努めてきました。しかし、利用者数の大幅な増加は見られず、魅力ある電子図書館とすべく、蔵書の充実とさらなる周知の徹底を行わなければなりません。

2 幼稚園、保育所(園)、その他施設

幼児期の子どもたちは、家庭から離れて幼稚園・保育所(園)などで先生や友だちと過ごし、さまざまな遊びを通して社会性を身に付け、新たな成長を遂げる大切な時期です。

本町には、現在、幼稚園が3カ所、保育所(園)が3カ所、類似施設が2ヶ所あり、各施設へのアンケート結果によると、すべての施設で頻繁に読み聞かせを行い、絵本だけではなく発達段階にあわせた図書を揃えたり、パネルシアター※⁵やペープサート※⁶など工夫を凝らしながら読書活動に取り組んでいることがわかります。

また、いずれの施設も読み聞かせに対する意識は高く、全施設が「読み聞かせは大切だと思う」と答えています。幼稚園・保育所(園)などでの読み聞かせが、本に親しむ幼児の育成に大きな影響力を与える有用性が理解されていると思われま

す。
今後は、大型絵本・紙芝居などの資料提供を継続的に進めると共に、団体貸出し

なども活用し、たくさんの本と出会うことができるよう読書活動を引き続き支援し、幅広く幼稚園・保育所（園）などと協力・連携していく必要があります。

※5 パネルシアター：パネル布（毛ばだちの良い布）を貼ったボードを舞台に、Pペーパーと呼ばれる不織布で作った絵人形を貼ったり、はがしたり、動かしたりしながら展開する変化が楽しい人形劇。

※6 ペープサート：ペーパー・パペット・シアターを短縮した造語で、紙人形劇。2枚の紙に人形画を描いたものを割箸に貼り合わせて作り、割箸を操作して、表裏二面の絵を返し転画したり、歩かせるように動かしたりすることで、動きのある物語が展開できる。

3 学校

学校図書館は、主体的な学習活動を支える情報を提供し、子どもたちの自由な読書活動を推進する重要な役割を担っています。

また、学校における読書は、子どもの豊かな人間形成を促し、自ら学習に取り組む、知識を得る大事な手段です。しかし、国の調査によると、1ヶ月間に全く本を読まない児童・生徒の割合が全国的に高い傾向を示しています。

アンケート結果によると、余市町では小学校で9割以上、中学校で8割以上、高校で約7割の児童・生徒が本を読むのが好きと答えており、本を読むことの楽しさを認識していることがわかります。しかし、1ヶ月間に本を読まない児童・生徒の割合は、小学生、中学生では全国平均を上回っており、高校生は全国平均並みであることから、これらの解消が今後の大きな課題と言えます。

最近の子どもたちは本を選ぶときに映像化された本に興味を示す傾向があり、それを踏まえ、子どもの語彙力や読解力を伸ばすための取組や、映像や絵を主体とした本から活字主体の本への移行がスムーズにできるようなサポートが必要と思われる。

小・中・高校生のすべてで、スマートフォン等の電子機器の所有率が非常に高くなっていますが、アプリゲームやSNS、動画視聴などに使用している割合が高いと思われ、電子書籍はあまり利用していないようです。また、電子図書館の利用率は依然と低く、認知されていない割合が高い状況にあります。

これらを踏まえ、今後は電子図書館を使っていつでもどこでも読書できる利点を活かして、より関心を深めてもらえるように周知し、利用促進に努めていかなければなりません。

また、児童・生徒が自ら紙媒体や電子媒体による読書を選択して、読むことの楽しさを感じながら興味をもって読書を続けていくことで、集中力や語彙力を高め、読書習慣が定着していくことを目標として、子どもたちの読書活動を支援していく役割が図書館に求められています。

この5年間で、児童図書貸出数及び学校や児童関連団体貸出数は、児童数の減少もあり少なくなっていますが、全体の貸出数におけるこれらの割合は一定水準を保っており、これは本計画に基づいた地道な活動が子どもの読書離れに歯止めをかける一つの役目を果たしていると思われ。

また、各小学校でのブックイベントやブックトーク※7、読み聞かせなどの活動が定着して、子どもたちの読書習慣のきっかけになっていると思われ、今後はより不読率の高い中・高校生向けの事業にも取り組んでいく必要があります。

余市町図書館では、学校への読書活動の支援として、図書の団体貸出を継続すると共に、各学校の要望に対しきめ細かく対処していくことが必要と考えます。

併せて、図書館見学や職場体験・インターンシップなどを受け入れると共に、学校図書館担当者との情報交流に努めながら学校との連携・協力をより一層深めてい

く必要があります。

※7 ブックトーク：読書意欲を喚起したり、学習への活用を勧めたりするため、特定のテーマに沿った複数の本について、粗筋を説明したり、一部分を朗読したり、挿絵を見せたりするなどして紹介する活動。

4 図書館

余市町図書館は開館以来、「親しまれる図書館」を目指して様々な事業を実施しながら読書活動の普及に努めてきました。

第2次子どもの読書活動推進計画の期間中には、新型コロナウイルス感染症拡大による施設の利用制限が実施されましたが、それに伴う交付金を活用して電子図書館が導入され、Wi-Fi インターネット環境を整備しました。

今後は、これらを活用することで、教育環境と読書環境の整備を行い、常時利用可能なサービスを提供し、図書館に来訪しづらい利用者へのアプローチを行うことで利便性と住民サービスの向上を図ると共に、親子や各世代の居場所としての図書館を実現するために、ベイビー&キッズタイムなどの事業を継続していきます。

魅力ある図書資料の整備については、この5年間児童書の貸出数は減少傾向にあるものの、全体の貸出冊数における児童書及び児童関連団体の貸出数は一定の割合を保っており、児童書や子育てに関する資料の導入を継続し、利用者の多様なニーズに応えることが重要と思われれます。

読書活動に関するボランティア等の連携・協力については、ボランティアが円滑に活動するための相談や調整役となるコーディネーターの養成については検討課題の一つです。また、今後はボランティア活動に参加する人たちを増やしていくことが求められ、ボランティア団体の整備が課題となっております。

子どもたちが読書の楽しさを知り、本に興味を持ち続けるための取組みについては、高い評価を得た絵本作家を招いてのワークショップなど、予定した事業は概ね実施し、参加者からは好評を得てきました。

支援を必要とする子どもたちへの働きかけについては、支援学級向けの選書や図書の団体貸出しを行いました。今後は、支援を必要とする子どもたちとの直接の交流に努める必要があります。

より多くの子どもたちがたくさんの本と出会い、図書館サービスの一層の充実を図りながら、子どもの読書活動を推進していくことが大切と感じます。

第4章 推進目標及び推進項目の具体的な取組み

1 子どもを読書好きにするための取組みの推進

推進目標 子どもたち一人ひとりに本への興味を持ってもらい、読書の楽しさを知ってもらう ～「意識の啓発」～

【子どもたちが読書の楽しさを知るために】

- ◇家庭では、乳幼児期から絵本や物語に親しみ、豊かな言葉と心を育むために読書の楽しさを伝えていくことが重要です。
- ◇地域では、余市町図書館や子育て・健康推進課などの関係機関、ボランティア団体などが連携し、子どもの発達段階にあわせて、読書と出会うきっかけづくりとなる取組みを行うことが重要です。
- ◇学校では、児童・生徒が本の魅力や読書の楽しさを実感し、進んで本を読もうとする意欲を養うことが重要です。

推進項目

- (1) 読書の楽しさを気づかせるための働きかけ
 - ① 子ども向け図書館講座や体験講座の実施
 - ② ブックスタート事業の充実とフォローアップの推進
 - ③ 年齢別オススメ本リストの配布
 - ④ 読書活動推進週間の継続
 - ⑤ 幼稚園、保育所等における団体貸出利用の促進
- (2) 子どもの読書活動に関する理解と関心の働きかけ
 - ① 子ども読書の日（4/23）、こどもの読書週間の啓発
 - ② 子どもの読書活動のための普及事業の実施
 - ③ 読書体験・読書感想文コンクールの実施
- (3) 支援を必要とする子どもたちへの読書活動の働きかけ
 - ① 訪問おはなし会の実施
 - ② 大型絵本等を活用した子ども交流ひろばの開催
 - ③ 対象となる子供向けの団体貸出利用の促進
- (4) 子どもを本好きにするための働きかけ
 - ① おはなし会など読書活動の実施
 - ② 「朝読」※8「家読」※9など読書活動の啓発
 - ③ おたのしみ会等の実施による本の魅力の発信
 - ④ 親子で楽しむワークショップや読み聞かせ会の開催
 - ⑤ 季節に合わせた魅力的な本の展示
 - ⑥ 保護者向け講座（読書の有用性、家読など）の実施

※8 朝読（あさどく）：学校等での朝の一斉読書を通して、読書をする習慣を身に付けてもらう取組みのこと。北海道教育委員会では、平成23年度から、北海道「朝読・家読運動」を実施している。

※9 家読（うちどく）：家庭での読書を通して、家族のコミュニケーションを図ろうという取組みのこと。

2 子どもの読書活動の推進に向けた働きかけ

推進目標 子どもの読書活動の推進に向けた協力体制を強化する
～「取組みへの支援」～

【子どもたちの読書活動を推進していくために】

- ◇関係機関、ボランティア団体等が連携・協力し、多様な経験を有する地域の人材を有効に活用しながら、子どもの読書活動の推進を図っていくことが大切です。
- ◇学校・家庭・地域社会がそれぞれ適切な役割分担を果たしながら相互に連携して読書活動を行うことが必要です。

推進項目

- (1) 子どもの読書活動を支援する団体等への組織化の働きかけ
 - ① ボランティアの育成・支援
 - ② ボランティア団体の活動状況の周知
- (2) 読書活動に関するボランティア等の連携・協力
 - ① ボランティアによる読書推進を目指した講演会・研修会の開催
 - ② 読み聞かせ・ブックトーク等に関連する技術的な研修の開催
 - ③ ボランティアと協力した展示やイベントの開催
- (3) 地域による学校の読書活動への支援
 - ① ボランティアによる学校図書館への支援

3 余市町図書館や学校図書館における図書整備

推進目標 子どもたちが身近に本を感じることができる環境をつくる
～「環境整備」～

【子どもたちが身近に本を感じるために】

- ◇余市町図書館は、子どもたちにとって読書と深く関わるための、きっかけづくりとなる場であり、時代に即したサービスの提供が求められています。
- ◇学校図書館は、読書を通して、生涯学習につながる「生きる力」をはぐくむ場であると共に、子どもたちに生き生きとした学びを支援する場でもあります。
- ◇読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにするためのものであり、その普及啓発は大切です。
- ◇電子図書館については、子ども達が利用しやすい環境整備や、授業における利用・活用の促進が重要です。

推進項目

- (1) 余市町図書館の環境整備
 - ① 魅力ある図書資料と視聴覚資料の整備
 - ② 電子図書館の利用促進と電子書籍の充実
 - ③ ホームページ、SNS※10 を活用した最新情報の提供
 - ④ 読書週間等における事業の実施
 - ⑤ ベイビー&キッズタイム※11 の拡充
 - ⑥ 快適な読書環境の整備

- (2) 学校図書館の環境整備
 - ① ボランティアによる学校図書館の環境整備
 - ② 余市町図書館による学校図書館に関する相談及び環境整備支援

- (3) 余市町図書館と学校及び学校図書館との連携強化
 - ① 余市町図書館から学校への貸出（団体貸出※12・授業支援貸出※13）
 - ② 放課後児童クラブへの貸出
 - ③ 図書委員会との交流事業
 - ④ 出前図書館やブックイベントの実施
 - ⑤ 図書担当教諭との緊密な情報交換
 - ⑥ 総合的な学習や調べ学習への支援

※10 SNS：ソーシャルネットワーキングサービスの略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイト（ホームページのサービスを提供しているシステムやサーバ）の会員制サービスのこと。

※11 ベイビー&キッズタイム：乳幼児連れの方が、気兼ねなく図書館を利用できるように、お子さんが泣いたり、おしゃべりしたりしてもあたたかく見守りましょうという時間。現在毎週水・土・日曜日の10時～12時実施。

※12 団体貸出：学校や団体に対してまとめて図書館資料を貸出すること。

※13 授業支援貸出：授業の内容に沿った本や、授業の中で参考にしたい本を貸出すること。

4 推進体系図

**余市町総合計画
余市町社会教育中期計画
余市町子どもの読書活動推進計画**

【推進目標】 意識の啓発

子どもたち一人ひとりに本への興味を持ってもらい、
読書の楽しさを知ってもらう

【推進項目】

- ・読書の楽しさを気づかせるための働きかけ
- ・子どもの読書活動に関する理解と関心の働きかけ
- ・支援を必要とする子どもたちへの読書活動の働きかけ
- ・子どもを本好きにするための働きかけ

【具体的な取組み】

- 子ども向け図書館講座や体験講座の実施
 ブックスタート事業の充実とフォロー・アップの推進
 年齢別オススメ本リストの配布
 読書活動推進週間の継続
 幼稚園、保育所等における団体貸出利用の促進
- 子ども読書の日、こどもの読書週間の啓発
 子どもの読書活動のための普及事業の実施
 読書体験・感想文コンクールの実施
- 訪問おはなし会の実施
 大型絵本等を活用した子ども交流ひろばの開催
 対象となる子ども向けの団体貸出利用の促進
- おはなし会など読書活動の実施
 「朝読」「家読」などの読書活動の啓発
 おたのしみ会等の実施による本の魅力の発信
 親子で楽しむワークショップや読み聞かせ会の開催
 季節に合わせた魅力的な本の展示
 保護者向け講座(読書の有用性・家読など)の実施

【推進目標】 取組みへの支援

子どもの読書活動の推進に向けた協力体制を強化する

【推進項目】

- ・子どもの読書活動を支援する団体等への組織化の働きかけ
- ・読書活動に関するボランティア等の連携・協力
- ・地域による学校の読書活動への支援

【具体的な取組み】

- ボランティアの育成・支援
 ボランティア団体の活動状況の周知
- ボランティアによる読書推進を目指した講演会・研修会の開催
 読み聞かせ・ブックトーク等に関連する技術的な研修の開催
 ボランティアと協力した展示やイベントの開催
- ボランティアによる学校図書館への支援

【推進目標】 環境整備

子どもたちが身近に本を感じることができる環境をつくる

【推進項目】

- ・余市町図書館の環境整備
- ・学校図書館の環境整備
- ・余市町図書館と学校及び学校図書館との連携強化

【具体的な取組み】

- 魅力ある図書資料と視聴覚資料の整備
 電子図書館の利用促進と電子書籍の充実
 ホームページ、SNSを活用した最新情報の提供
 読書週間等における事業の実施
 ベイビー＆キッズタイムの拡充
 快適な読書環境の整備
- ボランティアによる学校図書館の環境整備
 余市町図書館による学校図書館に関する相談及び環境整備支援
- 余市町図書館から学校への貸出
 放課後児童クラブへの貸出
 図書委員会との交流事業
 出前図書館やブックイベントの実施
 図書担当教諭との緊密な情報交換
 総合的な学習や調べ学習への支援

資料

第3次余市町子どもの読書活動推進計画にかかる 読書アンケート調査集計結果の概要

1. 読書アンケート調査の目的

第3次余市町子どもの読書活動推進計画を策定（令和8年度予定）するにあたり、子どもたちの読書実態の把握や読書に関する興味・関心の度合い、幼児期からの本との関わりや保護者の方の考え方、読書施設の利用状況などを調査して、第2次余市町子どもの読書活動推進計画策定時のアンケート結果と比較し、分析するために実施する。

2. 調査対象

- ・町内の小学校4年、6年及び中学校2年生（小学校4・中学校3）
- ・町内の高校2年生（高校2）
- ・町内の保育所（園）・幼稚園等に通っている子どもの保護者
（保育所2・保育園1・幼稚園3・その他2）

3. 実施期間

令和7年7月15日～8月15日

※インターネットによる回答

4. 回答率

※アンケート対象者総数 769人

	小学校4年生	小学校6年生	中学校2年生	高校2年生	保育所・幼稚園等保護者
対象者数	94人	130人	111人	106人	328世帯
回答者数	94人	120人	96人	64人	95世帯
回答率	100.0%	92.3%	86.5%	60.4%	29.3%
	小学生回答率 95.5%				
回答内訳	回答 470人 未回答 299人 回答率 61.1%				

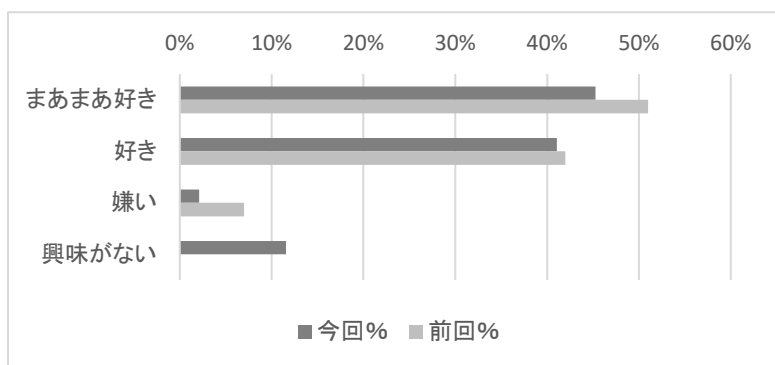
「読書アンケート調査」集計結果

余市町子どもの読書 アンケート調査（幼稚園・保育所・保育園等保護者）

※回答を「いくつでも」としている項目については、合計回答数がアンケート回答者数より多くなっている場合があります、%表示については、全回答数ではなくアンケート回答者数（95世帯）を分母としているので、合計は100%を超える場合があります。

※※前回調査 令和2年実施

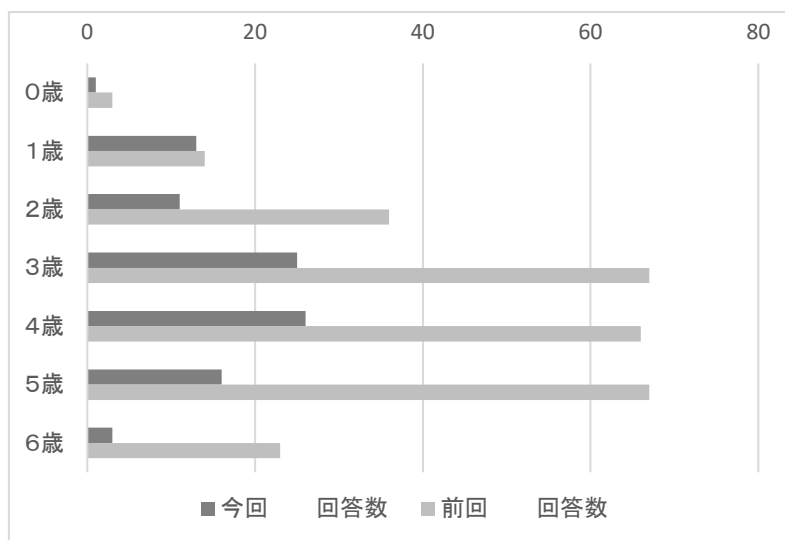
<問1> あなたは本が好きですか。



項目	回答数	今回%	前回%
まあまあ好き	43	45%	51%
好き	39	41%	42%
嫌い	2	2%	7%
興味がない	11	12%	-

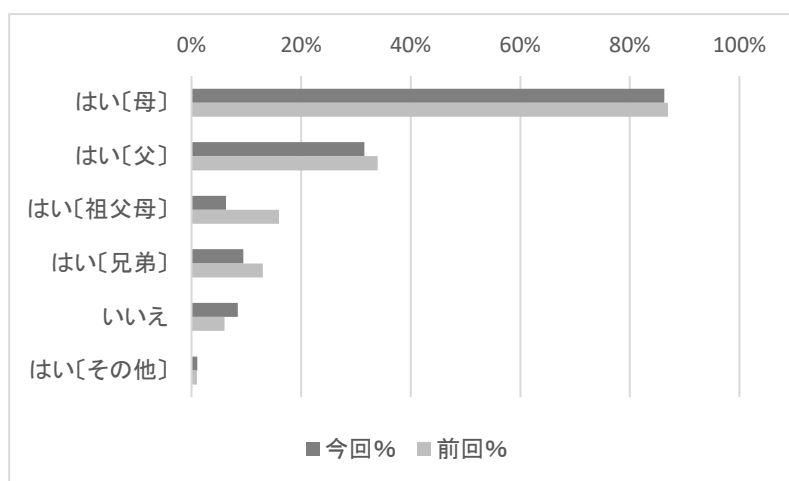
【前回調査時よりやや下がったものの、「まあまあ好き」（45%）と好き（41%）を合わせ多くの人（86%）が本は好きだと分かります。】

<問2> 幼稚園・保育所に通っているお子さんは何歳ですか。



項目	今回 回答数	前回 回答数
0歳	1	3
1歳	13	14
2歳	11	36
3歳	25	67
4歳	26	66
5歳	16	67
6歳	3	23

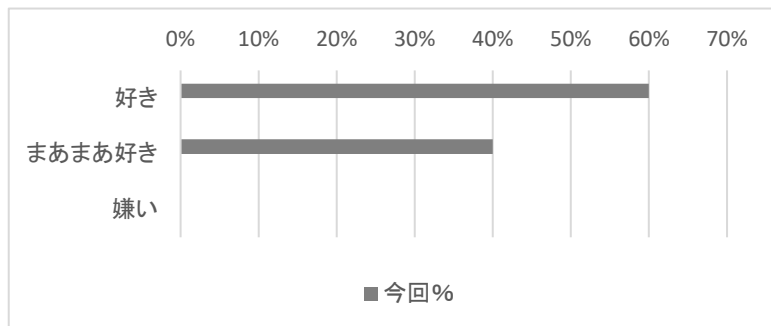
<問3> あなたのご家庭では、お子さんに絵本などを読んでいますか。また、読むのはおもに誰ですか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
はい[母]	82	86%	87%
はい[父]	30	32%	34%
はい[祖父母]	6	6%	16%
はい[兄弟]	9	9%	13%
いいえ	8	8%	6%
はい[その他]	1	1%	1%

【家庭において本を読んで聞かせているのは、父親(32%)に比べ母親の割合が高く(86%)、子どもと接する時間の多さに加え本に対する母親の意識が高いことが伺えます。】

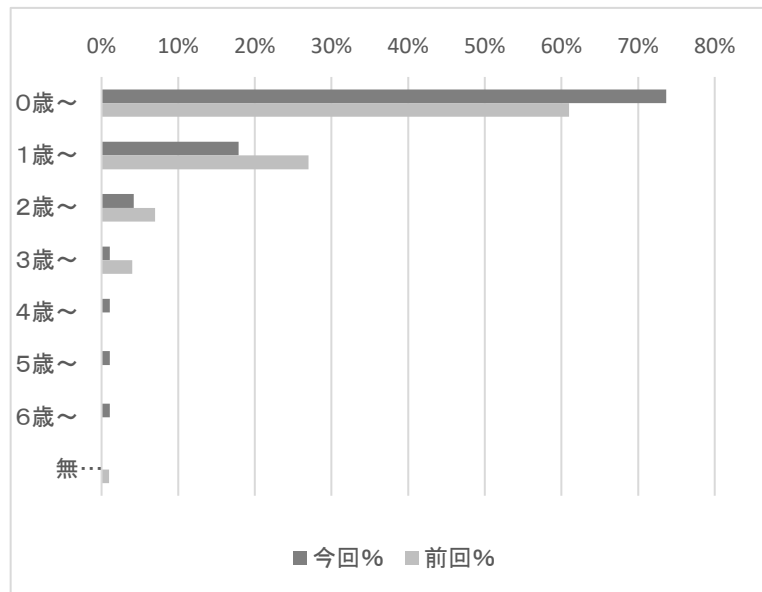
＜問4＞ お子さんは本が好きですか。



項目	回答数	今回%	前回%
好き	57	60%	-
まあまあ好き	38	40%	-
嫌い	0	0%	-

【「本が好き」あるいは「まあまあ好き」が100%を占め、子どもの本への興味が高いことが分かります。】

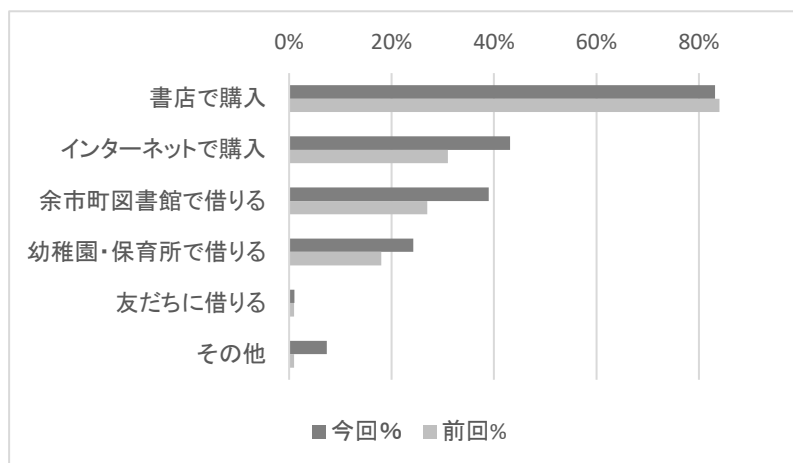
＜問5＞ あなたのご家庭では、お子さんが何歳くらいから読み聞かせをしましたか。



項目	回答数	今回%	前回%
0歳～	70	74%	61%
1歳～	17	18%	27%
2歳～	4	4%	7%
3歳～	1	1%	4%
4歳～	1	1%	0%
5歳～	1	1%	0%
6歳～	1	1%	0%
無回答	0	0%	1%

【70%以上の親が1歳以前に読み聞かせを始めています。本は幼い頃から育児に欠かせないものだと認識していると思われます。】

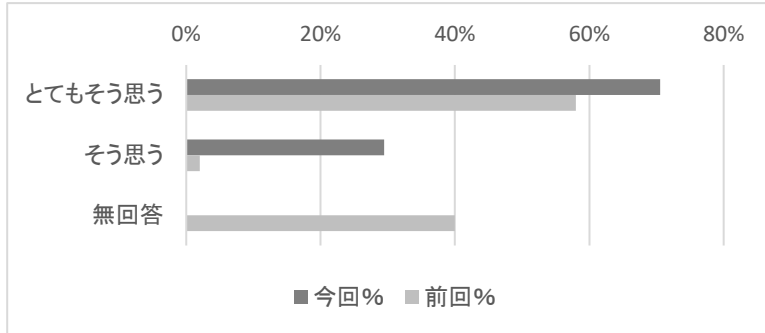
＜問6＞ あなたのご家庭では、読んであげる本はどのように入手していますか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
書店で購入	79	83%	84%
インターネットで購入	41	43%	31%
余市町図書館で借りる	37	39%	27%
幼稚園・保育所で借りる	23	24%	18%
友だちに借りる	1	1%	1%
その他	7	7%	1%

【書店やインターネットで「購入する」が高い割合を示しています。次いで「余市町図書館で借りる」が20%で、入手方法として図書館がある程度認知されていることが分かります。「その他」としてお下がりの本やプレゼントでもらったという回答がありました。】

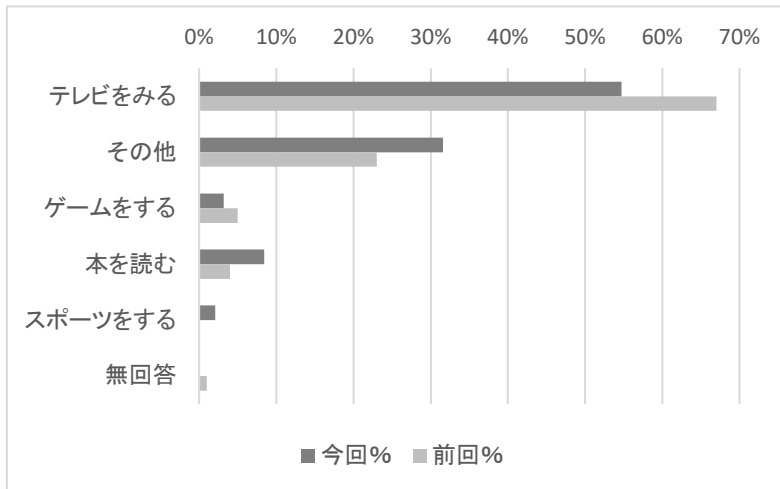
＜問7＞ あなたは、幼いころから本に親しむことは大切なことだと思いますか。



項目	回答数	今回%	前回%
とてもそう思う	67	71%	58%
そう思う	28	29%	2%
無回答	0	0%	40%

【アンケート回答の全保護者が幼いころから本に親しむことが大切だと思っています。】

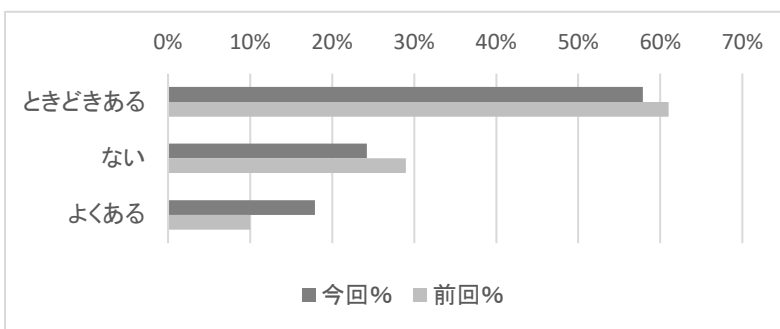
＜問8＞ あなたのご家庭では、夕食後、家族でいっしょに過ごす時間で一番多いのはどれですか。



項目	回答数	今回%	前回%
テレビをみる	52	55%	67%
その他	30	32%	23%
ゲームをする	3	3%	5%
本を読む	8	8%	4%
スポーツをする	2	2%	0%
無回答	0	0%	1%

【「テレビをみる」が55%で圧倒的に多く、「本を読む」より娯楽が優先されていることが分かります。】

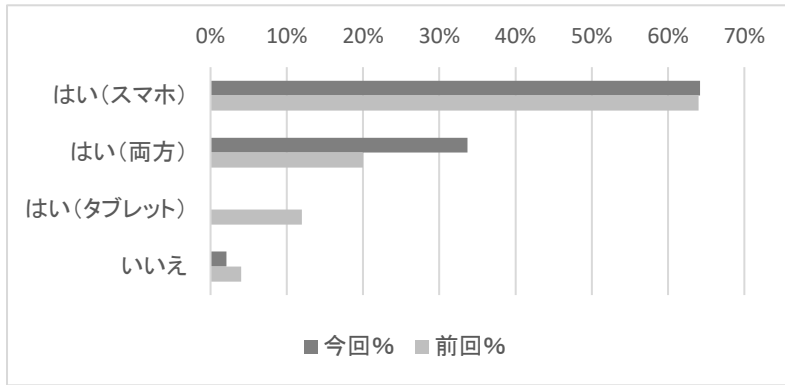
＜問9＞ あなたのご家庭では、家族で本について話題になることはありますか。



項目	回答数	今回%	前回%
ときどきある	55	58%	61%
ない	23	24%	29%
よくある	17	18%	10%

【家族で本について話題になるのは70%を超え、本を話題にすることで、子どもが興味を持つ入口になることもあるため、家族の話題のきっかけとなるよう、図書館の展示などを充実させることが重要です。】

＜問10＞ あなたはスマートフォンやタブレットを持っていますか。

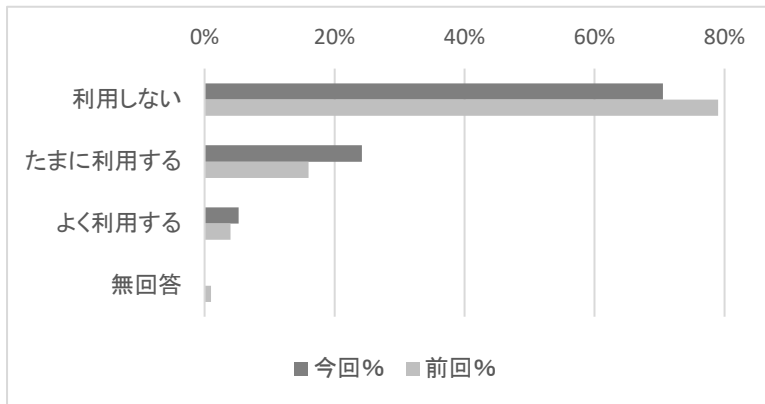


項目	回答数	今回%	前回%
はい(スマホ)	61	64%	64%
はい(両方)	32	34%	20%
はい(タブレット)	0	0%	12%
いいえ	2	2%	4%

※スマホの前回%は携帯とスマホの合計

【保護者の98%がスマホ・タブレットのいずれかを所持しており、身近に電子機器が普及していることが分かります。】

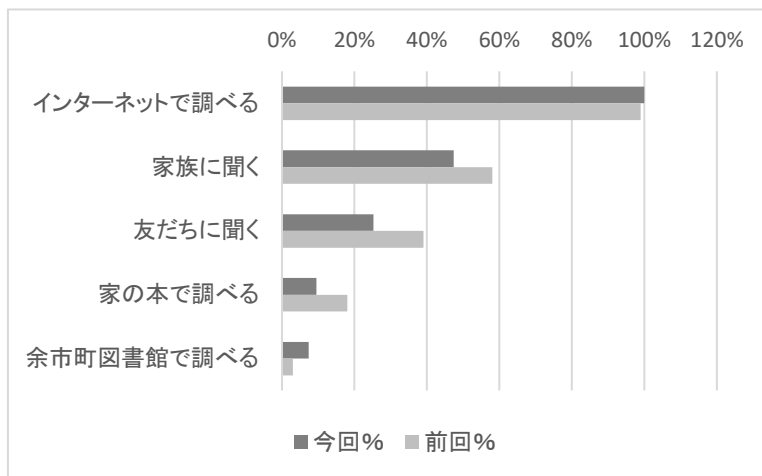
＜問11＞ あなたは、電子書籍やWebで公開している小説などを利用しますか。



項目	回答数	今回%	前回%
利用しない	67	71%	79%
たまに利用する	23	24%	16%
よく利用する	5	5%	4%
無回答	0	0%	1%

【スマホ・タブレットの所持率が高いが、電子書籍などを利用する割合が30%未満であることから。電子機器は使用するが、電子書籍がその目的ではない人が多いことが分かります。電子図書館についての周知と蔵書の充実が必要であると考えられます。】

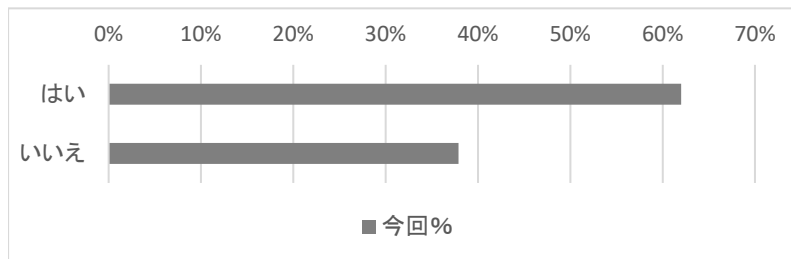
＜問12＞ あなたは、知りたいことがあるとき、どうやって調べますか。(いくつでも)



項目	回答数	今回%	前回%
インターネットで調べる	95	100%	99%
家族に聞く	45	47%	58%
友だちに聞く	24	25%	39%
家の本で調べる	9	9%	18%
余市町図書館で調べる	7	7%	3%

【保護者の多くは、インターネットから情報を得ているようです。また、家族に聞いたり、家の本で調べたり、家の中で解決している割合が高いことが分かります。本で調べる方が手間や時間がかかるが、信憑性の高い情報が多いなどのメリットについて理解してもらう必要があります。】

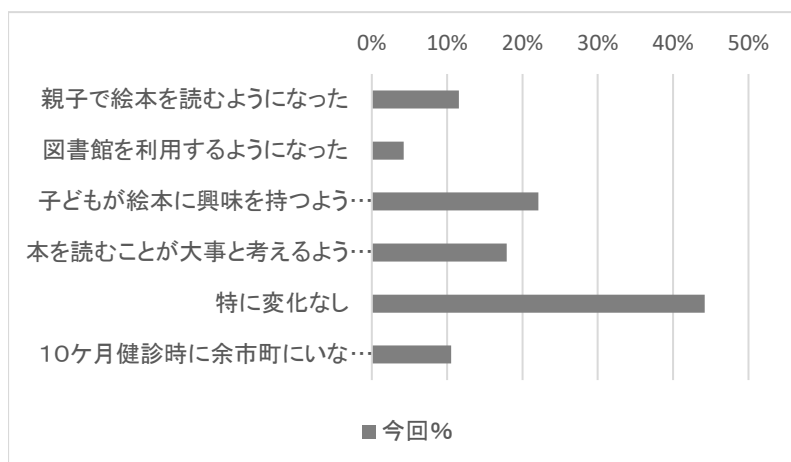
＜問13＞ ブックスタート事業を知っていますか。



項目	回答数	今回%	前回%
はい	59	62%	-
いいえ	36	38%	-

【38%の保護者は知らなかったことから、事業のさらなる周知が必要です。】

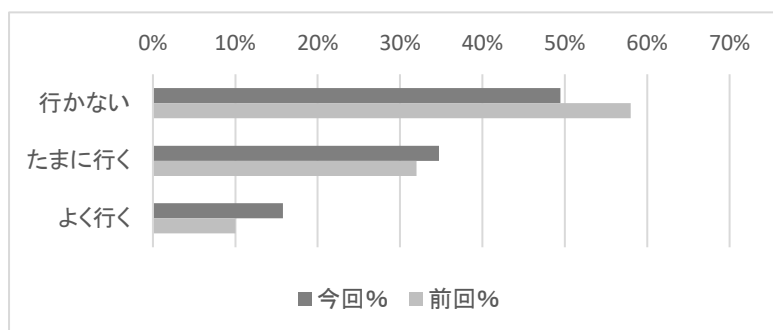
＜問14＞ 余市町では10ヶ月健診時に絵本をプレゼントしていますが、それがきっかけで親子の関わりに変化はありましたか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
親子で絵本を読むようになった	11	12%	-
図書館を利用するようになった	4	4%	-
子どもが絵本に興味を持つようになった	21	22%	-
本を読むことが大事と考えるようになった	17	18%	-
特に変化なし	42	44%	-
10ヶ月健診時に余市町にいなかった	10	11%	-

【「子どもが絵本に興味を持つようになった」や「本を読むことが大事と考えるようになった」などのプラスの変化が見られることから、ブックスタート事業は今後も必要な事業と考えられます。】

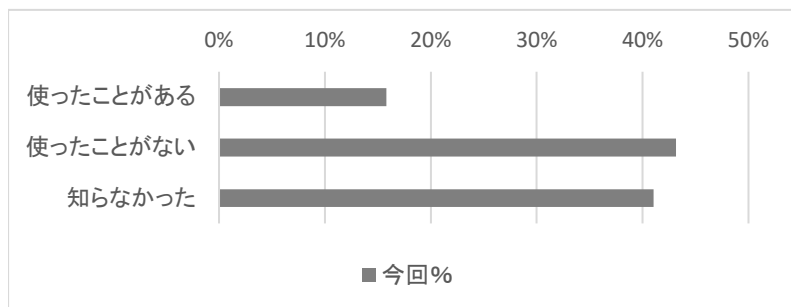
＜問15＞ 余市町図書館へ行きますか。



項目	回答数	今回%	前回%
行かない	47	49%	58%
たまに行く	33	35%	32%
よく行く	15	16%	10%

【前回調査時より下がったとはいえ保護者の49%が図書館を利用していません。「図書館は子供連れでは利用しづらい」という従来の図書館像が足を遠のさせる理由の一つと考えられます。昨今の図書館は「集い、学び、楽しむ場所」としての機能も備えていることや、ベビー&キッズタイムなどの周知に努めなければなりません。】

<問16> 余市町電子図書館を使ったことはありますか。



項目	回答数	今回%	前回%
使ったことがある	15	16%	-
使ったことがない	41	43%	-
知らなかった	39	41%	-

【電子図書館を「使ったことがない」あるいは「知らなかった」が80%を超えており、電子図書館についての周知と蔵書の充実が必要です。】

<問17> 余市町図書館にあったらいいと思うものはなんですか。
(自由に書いてください)

<余市町図書館についての自由記述の一部>

- ・子ども向けの本がもっとあれば良い
- ・絵本の種類がもっと増えて欲しい
- ・空調設備、新しい照明
- ・子どもが飲食できるスペース
- ・子どもが声を出しても気にならないスペース
- ・軽食が食べられるカフェ

保育所・幼稚園の保護者からの要望・意見については、大きく2つに分類できました。

1つ目は、施設面での要望です。「空調設備・新しい照明」については、施設の老朽化とともに、LED照明の設置ならびに熱中症予防のためのエアコンの設置が急務となることを考えなければなりません。「子どもが飲食できるスペース」「子どもが声を出しても気にならないスペース」などの意見については、子どもと一緒に、声を出しても良い、飲食もでき、工作やお絵かきができるフリースペースのような場所が求められていると思われます。「静かにしなければいけない」という従来の図書館像が定着しているため、小さな子どもが一緒だと、専用のスペースがないと利用しづらいと感じているようです。

2つ目は、蔵書に関する要望です。子ども向けの本や絵本の種類を増やして欲しいといった意見から、さらに魅力ある蔵書を増やしていくことが必要です。

今回のアンケート結果を踏まえ、子ども連れでも気兼ねなく利用でき、子どもと一緒に楽しめる場を提供することが必要であることが分かりました。寛容で親しみが持てる「居場所としての図書館」として機能する必要があると考えます。

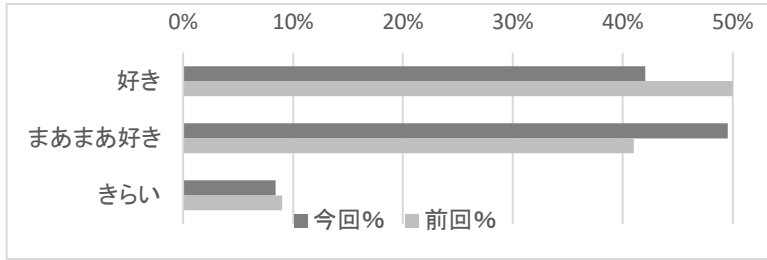
「読書アンケート調査」集計結果

余市町子どもの読書 アンケート調査（小学生）

※回答を「いくつでも」としている項目については、合計回答数がアンケート回答者数より多くなっている場合があります。%表示については、全回答数ではなくアンケート回答者数（214人）を分母としているので、合計は100%を超える場合があります。

※※前回調査 令和2年実施

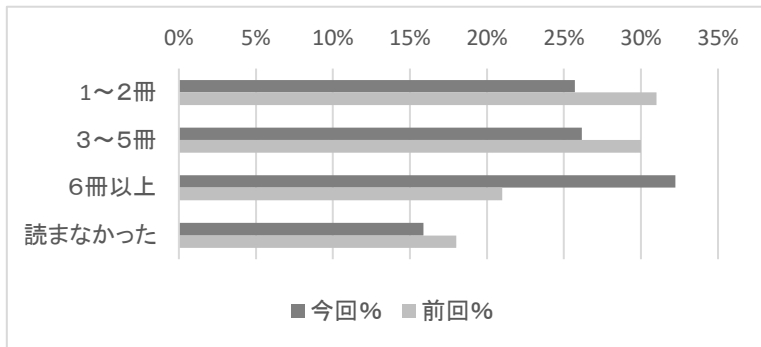
<問1> あなたは本を読むのが好きですか。



項目	人数	今回%	前回%
好き	90	42%	50%
まあまあ好き	106	50%	41%
きらい	18	8%	9%

【「まあまあ好き」（50%）と「好き」（42%）とで90%を超え、ほとんどの児童が読書が好きだと分かります。】

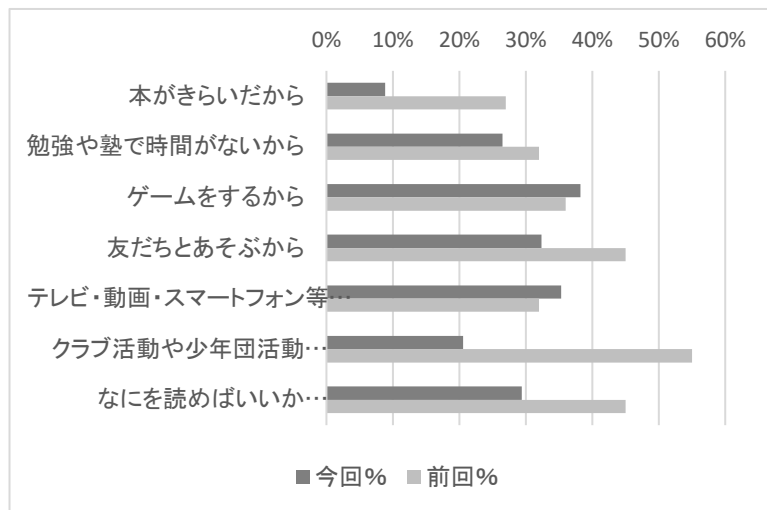
<問2> この1ヶ月で、なん冊くらい本を読みましたか。（教科書・マンガ・雑誌以外で）



項目	人数	今回%	前回%
1~2冊	55	26%	31%
3~5冊	56	26%	30%
6冊以上	69	32%	21%
読まなかった	34	16%	18%

【前回調査では「月に1~2冊」が最も多かったのに対し、今回は「月6冊以上」が32%で最多という結果になりました。「読まなかった」の割合は前回と比較して若干減少していますが、問1の本を読むのが「きらい」が8%に対し、本間の本を「読まなかった」が16%であることから、読書がきらいではないが、結果的に本を読んでない児童が存在することがうかがえます。】

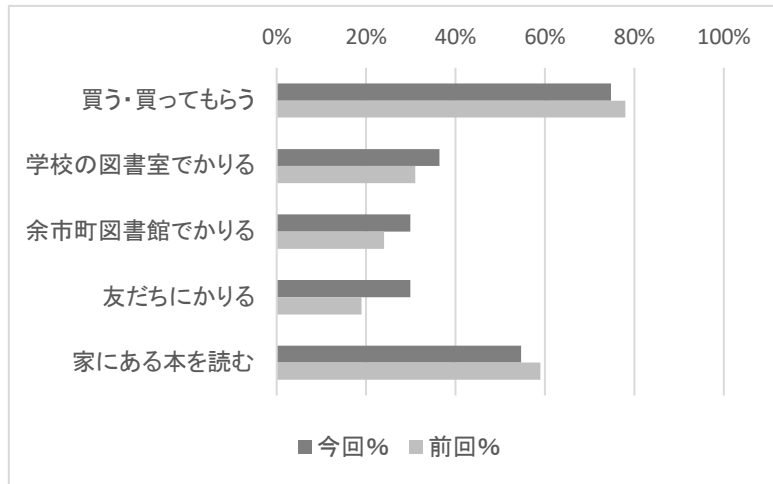
<問3> 問2で「読まなかった」と答えた人だけにお聞きします。読まなかったのはなぜですか。（いくつでも）



項目	人数	今回%	前回%
本がきらいだから	3	9%	27%
勉強や塾で時間がないから	9	26%	32%
ゲームをするから	13	38%	36%
友だちとあそぶから	11	32%	45%
テレビ・動画・スマートフォン等...	12	35%	32%
クラブ活動や少年団活動...	7	21%	55%
なにを読めばいいかわからなかったから	10	29%	45%

【読まなかったの理由として、「ゲームをする」「友だちと遊ぶ」「テレビ・動画等を見て時間がない」などの遊びや娯楽を優先することが分かります。また「なにを読めばいいのかわからなかった」が一定数存在しており、。多様な本と出会う機会を提供するため、ブックトークなどのイベントを充実しなければなりません。】

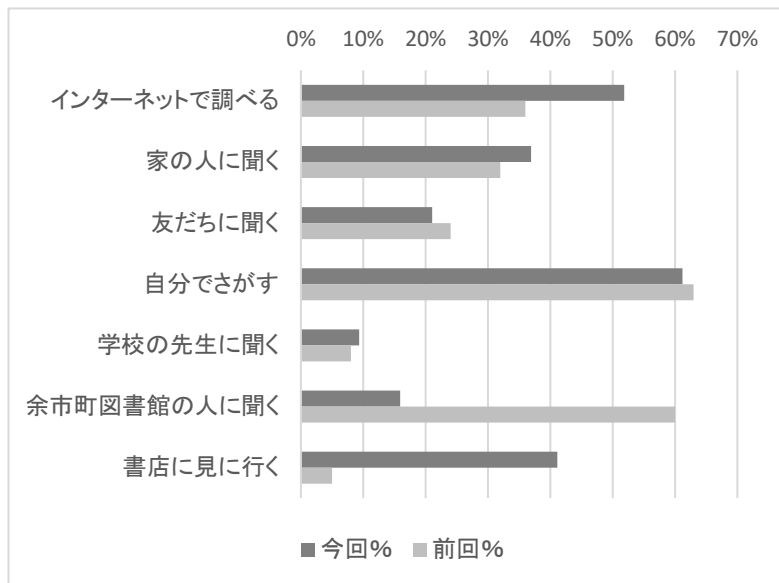
<問4> 読みたい本はどのように手にいれますか。(いくつでも)



項目	今回	今回%	前回%
買う・買ってもらう	160	75%	78%
学校の図書室でかりる	78	36%	31%
余市町図書館でかりる	64	30%	24%
友だちにかりる	64	30%	19%
家にある本を読む	117	55%	59%

【「買う・買ってもらう」が最多で70%を超え、次いで「家にある本を読む」が50%超であり、入手後に同じ本を繰り返し読んでいくことが分かります。また、学校の図書室や余市町図書館あるいは友だちに借りる児童も少なくありません。小学校期は、読書を習慣づける大事な時期なので、多様な本に触れるために、展示やイベントを充実し、本と出会うサポートを行う必要があります。】

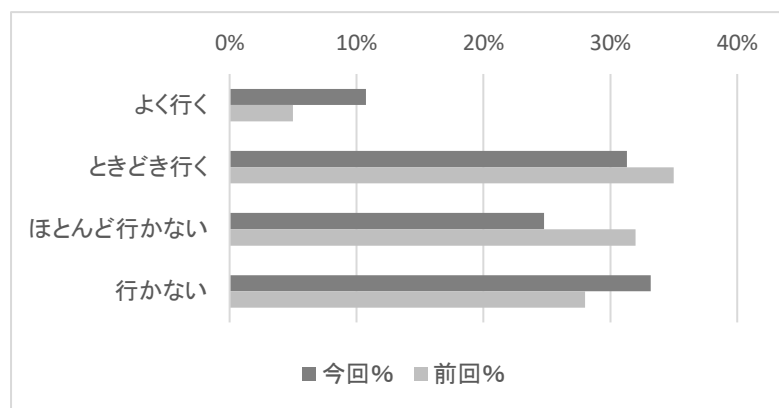
<問5> 読みたい本をどのようにみつけますか。(いくつでも)



項目	今回	今回%	前回%
インターネットで調べる	111	52%	36%
家の人に聞く	79	37%	32%
友だちに聞く	45	21%	24%
自分でさがす	131	61%	63%
学校の先生に聞く	20	9%	8%
余市町図書館の人に聞く	34	16%	60%
書店に見に行く	88	41%	5%

【「インターネットで調べる」を含め多くの児童が、読みたい本を自分でさがす傾向がうかがえます。前回調査と比べ、「書店に見に行く」が増え、「図書館の人に聞く」が大幅に減少していることから、図書館からのおすすめ本紹介など積極的な発信が必要です。】

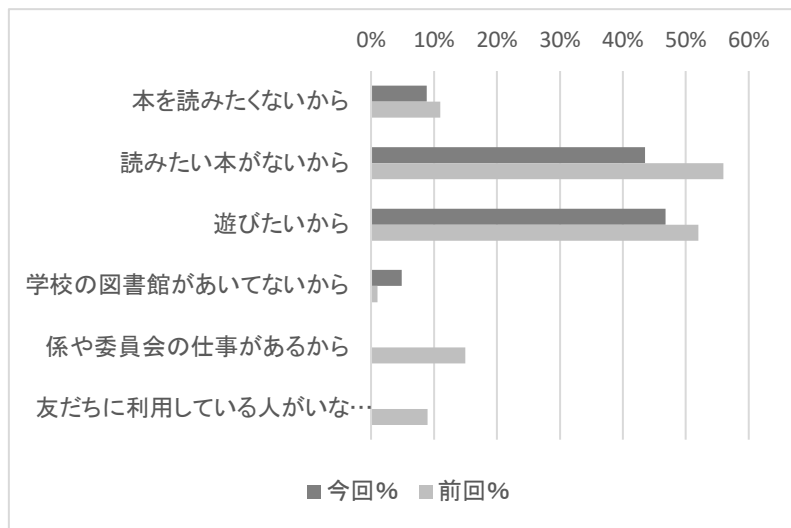
<問6> 休み時間や放課後に学校の図書館へ行きますか。



項目	人数	今回%	前回%
よく行く	23	11%	5%
ときどき行く	67	31%	35%
ほとんど行かない	53	25%	32%
行かない	71	33%	28%

【学校図書館へは「ほとんど行かない」(25%)「行かない」(33%)を合わせて60%弱が利用していない現状は、前回調査と同じ傾向にあるが、それに対して「よく行く」が11%と向上しています。】

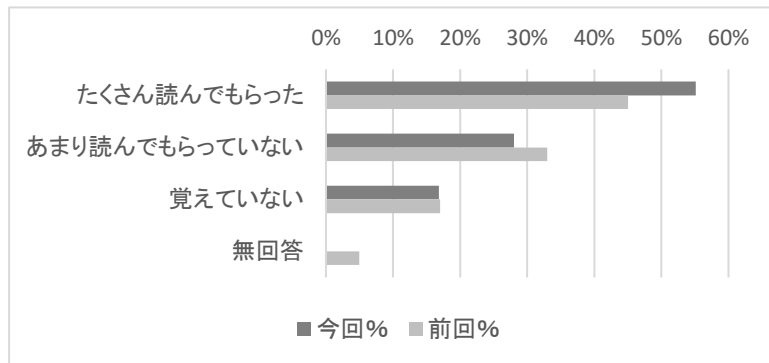
<問7> 問6で「ほとんど行かない」「行かない」と答えた人だけにお聞きします。
学校の図書館に行かないのはなぜですか。(いくつでも)



項目	今回	今回%	前回%
本を読みたくないから	11	9%	11%
読みたい本がないから	54	44%	56%
遊びたいから	58	47%	52%
学校の図書館があいてないから	6	5%	1%
係や委員会の仕事があるから	0	0%	15%
友だちに利用している人がいないから	0	0%	9%

【行かない主な理由は、「遊びたいから」が最も多いが、「読みたい本がないから」もほぼ同数であり、蔵書の充実や雰囲気づくりなど図書館に足が向くような工夫が必要と考えられます。】

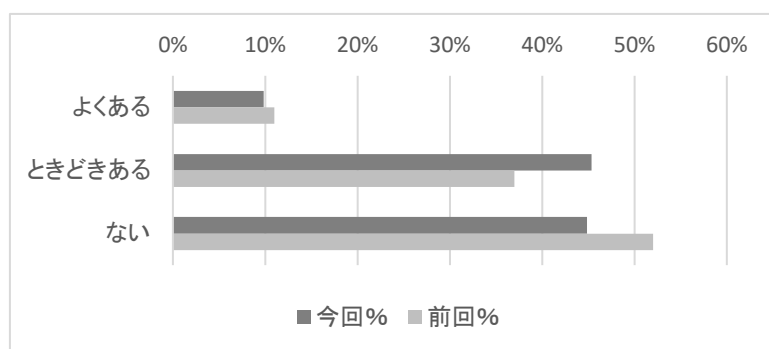
<問8> 絵本の読み聞かせなどをしてもらったことはありますか。



項目	人数	今回%	前回%
たくさん読んでもらった	118	55%	45%
あまり読んでもらっていない	60	28%	33%
覚えていない	36	17%	17%
無回答	0	0%	5%

【読み聞かせをしてもらった経験では、「たくさん読んでもらった」が50%を超え、前回調査から増加していることから、徐々にではありますが読み聞かせが定着してきており、さらなる拡充に向けて親子参加の読み聞かせ会なども検討していかねばなりません。】

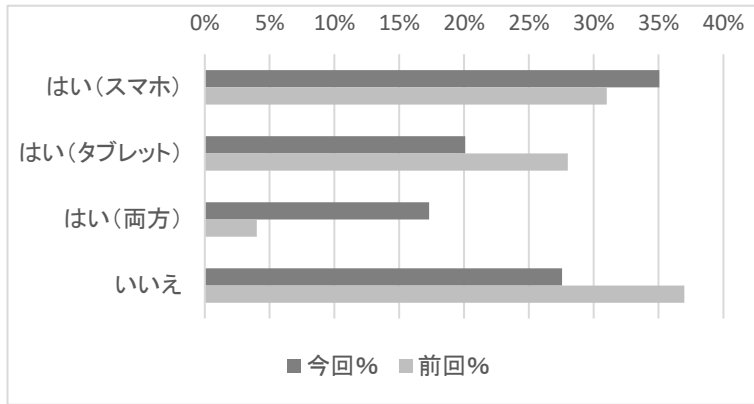
<問9> 家族で本について話題になることはありますか。



項目	人数	今回%	前回%
よくある	21	10%	11%
ときどきある	97	45%	37%
ない	96	45%	52%

【家族で本について話題になるのは「よくある」「ときどきある」を合わせて55%であり、幼稚園・保育所等の幼年期の76%に比べ下がっているため、家族の話題のきっかけとなるよう図書館展示の充実や保護者向けの講座などの取組が必要と考えられます。】

<問10> 自分のスマートフォンやタブレットを持っていますか。

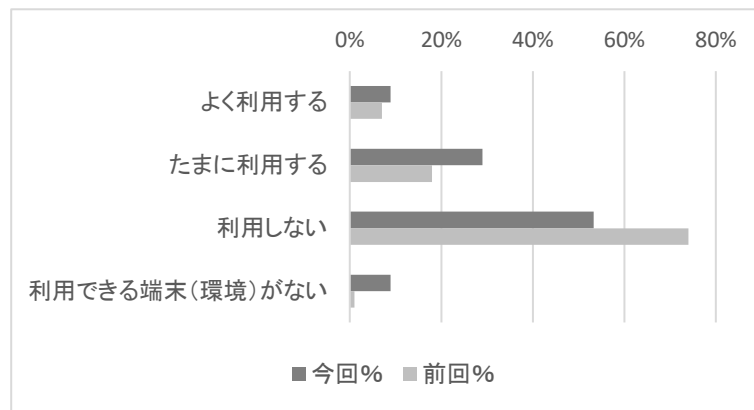


項目	人数	今回%	前回%
はい(スマホ)	75	35%	31%
はい(タブレット)	43	20%	28%
はい(両方)	37	17%	4%
いいえ	59	28%	37%

※スマホの前回%は携帯とスマホの合計

【スマホ・タブレットのいずれかを所持しているのは72%に上り、前回調査より増加していることから、これらの電子機器が児童にも普及してきていることが分かります。】

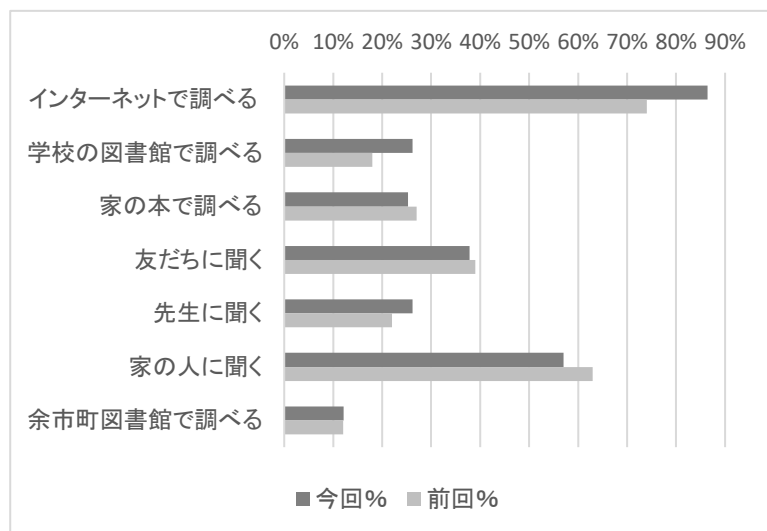
<問11> 電子書籍やWebで公開している小説などを利用しますか。



項目	人数	今回%	前回%
よく利用する	19	9%	7%
たまに利用する	62	29%	18%
利用しない	114	53%	74%
利用できる端末(環境)がない	19	9%	1%

【38%の児童が電子書籍を何らかの形で利用しており、前回調査より利用率は向上している。電子図書館の利用促進には、魅力ある蔵書の充実と周知が必要です。】

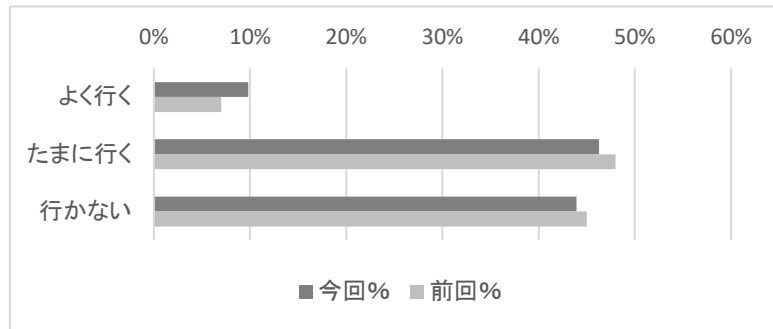
<問12> 知りたいことがあるとき、どうやって調べますか。(いくつでも)



項目	今回	今回%	前回%
インターネットで調べる	185	86%	74%
学校の図書館で調べる	56	26%	18%
家の本で調べる	54	25%	27%
友だちに聞く	81	38%	39%
先生に聞く	56	26%	22%
家の人に聞く	122	57%	63%
余市町図書館で調べる	26	12%	12%

【前回調査と同様に、「インターネットで調べる」が86%と高い割合を示しています。インターネットに比べると、本で調べるのは手間や時間はかかりますが、より信憑性の高い情報を得られるなどのメリットの理解促進を図らなければなりません。】

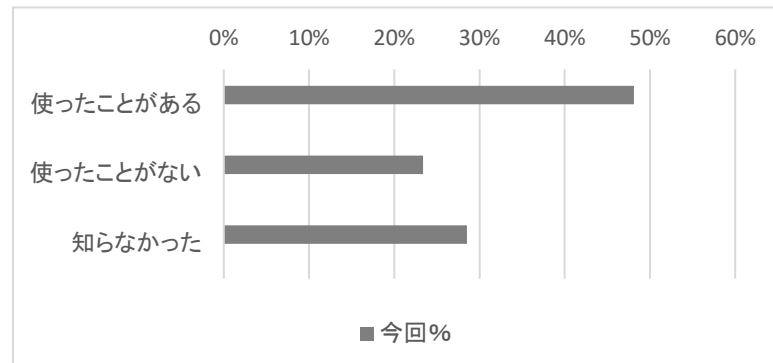
<問 1 3> 余市町図書館へ行きますか。



項目	人数	今回%	前回%
よく行く	21	10%	7%
たまに行く	99	46%	48%
行かない	94	44%	45%

【「よく行く」「たまに行く」を合わせた56%が図書館を利用しており、前回調査とほぼ同様の傾向が見られます。さらに図書館利用を促すためには、児童向けの展示やイベントなどの工夫が必要と考えられます。】

<問 1 4> 余市町電子図書館を使ったことはありますか。



項目	人数	今回%	前回%
使ったことがある	103	48%	-
使ったことがない	50	23%	-
知らなかった	61	29%	-

【「使ったことがない」あるいは「知らなかった」が半数を超えており、電子図書館の利用促進に向けて、魅力ある蔵書の充実と周知が不可欠と考えられます。】

<問 1 5> 余市町図書館にあっという間と思うものはなんですか。
(自由に書いてください)

<余市町図書館についての自由記述の一部>

- ・ 人気のあるマンガ・アニメの本や怖い本を置いて欲しい
- ・ 司書さんのおすすめの本のコーナーをつかってほしい
- ・ 本を読んでくれる機械がほしい
- ・ 読みたい本がすぐに見つけられるサービスが欲しい
- ・ コーヒーなどの飲み物やお菓子がほしい
- ・ 勉強するスペースに調べものができるパソコンがほしい
- ・ あらすじなどが書かれた紙がほしい
- ・ 本の場所をもう少しわかりやすく表示して欲しい

小学生の自由記述には、大きく分けて3つの要望がありました。

1つ目は、蔵書に関する要望です。漫画本や、アニメの本を入れて欲しいという要望が多くありました。これについては、リクエストに応えながら、児童の成長に応じて漫画やアニメのように文字ではなく絵を主体とする本から、活字主体の本への移行がスムーズにできるようにサポートをしなければなりません。

2つ目は、人気ランキングや、本のレビュー、司書のオススメ本が知りたいとの要望です。これについては、図書館だよりやSNSでの発信や館内のPOPや展示を工夫し充実を図らなければなりません。

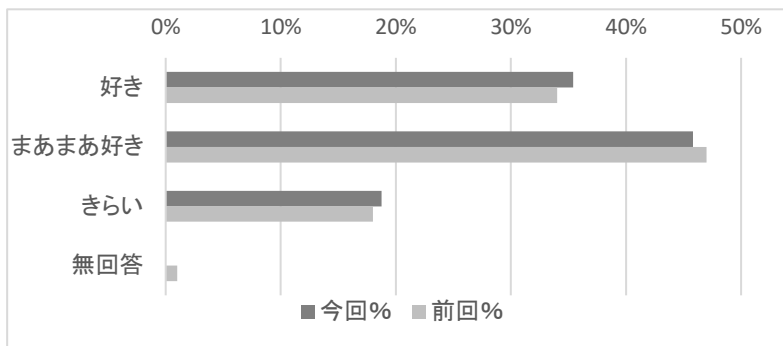
3つ目は、施設やサービスに関する要望がありました。飲食に関することや、パソコンによる絵本作成や動画を見れる場所求める声もある中、「読みたい本がすぐに見つけられるサービスが欲しい」「本の場所をもう少しわかりやすく表示して欲しい」という声もありました。これについては、検索機器の使用方法を児童にも分かりやすく伝え、より丁寧なレファレンスサービスを提供していかねばなりません。

「読書アンケート調査」集計結果 余市町子どもの読書 アンケート調査（中学生）

※回答を「いくつでも」としている項目については、合計回答数がアンケート回答者数より多くなっている場合があります、%表示については、全回答数ではなくアンケート回答者数（96人）を分母としているので、合計は100%を超える場合があります。

※※前回調査 令和2年実施

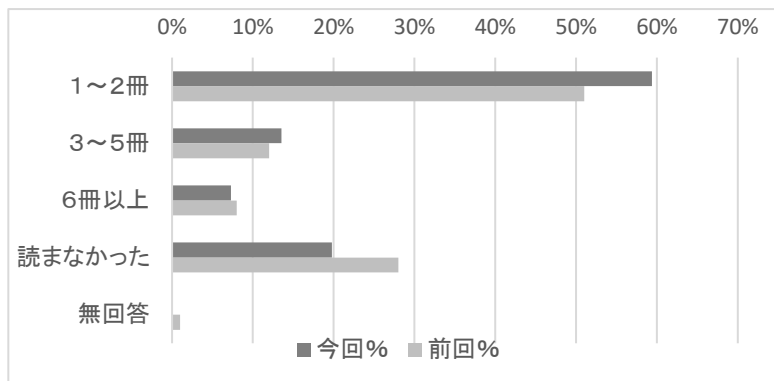
<問1> あなたは本を読むのが好きですか。



項目	回答数	今回%	前回%
好き	34	35%	34%
まあまあ好き	44	46%	47%
きらい	18	19%	18%
無回答	0	0%	1%

【「まあまあ好き」（46%）と「好き」（35%）を合わせた81%の生徒が読書が好きだと分かります。】

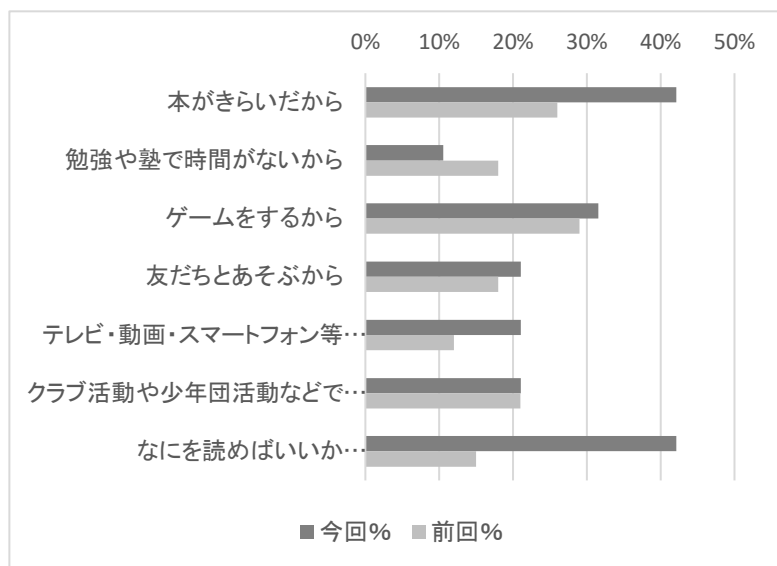
<問2> この1ヶ月で、なん冊くらい本を読みましたか。（教科書・マンガ・雑誌以外で）



項目	回答数	今回%	前回%
1～2冊	57	59%	51%
3～5冊	13	14%	12%
6冊以上	7	7%	8%
読まなかった	19	20%	28%
無回答	0	0%	1%

【1ヶ月全く本を読まなかった生徒（不読者）は20%で、前回調査時よりは減少しましたが、小学生の調査結果（16%）に比べると不読者は増加傾向を見せ、読んだ冊数は少なくなっています。また、全国調査の中学生における不読者率23.4%に近い数値となっています。】

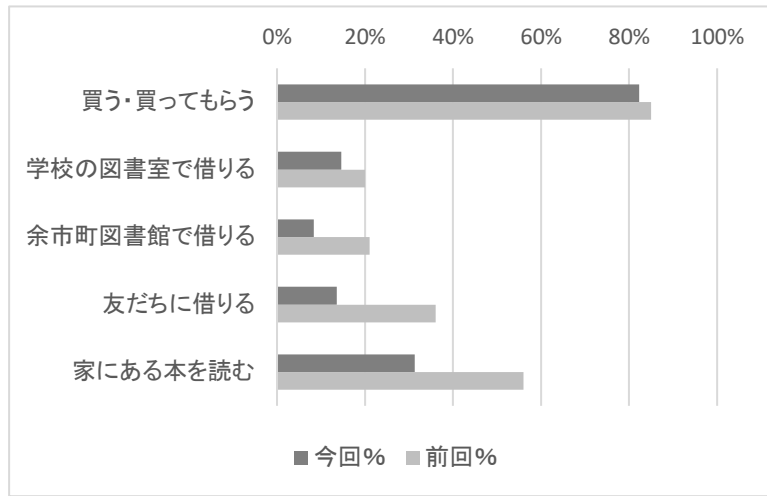
<問3> 問2で「④読まなかった」と答えた人だけにお聞きします。読まなかったのはなぜですか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
本がきれいだから	8	42%	26%
勉強や塾で時間がないから	2	11%	18%
ゲームをするから	6	32%	29%
友達とあそぶから	4	21%	18%
テレビ・動画・スマートフォン等...	4	21%	12%
クラブ活動や少年団活動などで...	4	21%	21%
なにを読めばいいかわからなかったから	8	42%	15%

【読まなかった理由として、「本がきれい」「なにを読めばいいかわからなかった」がやや多く、多様な本と出会うためのサポートをする中学生向けの事業など、不読者に対するアプローチが必要と考えられます。また、小学生の調査結果に比べると、「ゲームをする」「友達と遊ぶ」などの遊びや娯楽を優先する割合は下がる傾向が見られます。】

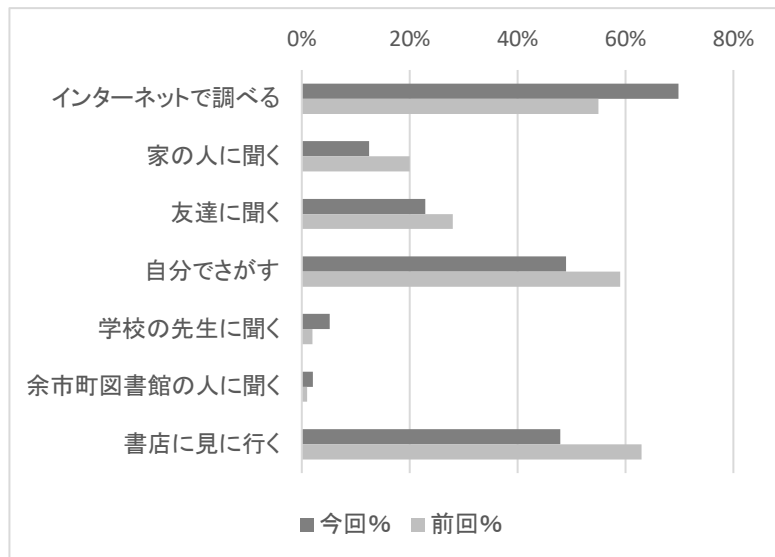
＜問4＞ 読みたい本はどのように手にいれますか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
買う・買ってもらう	79	82%	85%
学校の図書室で借りる	14	15%	20%
余市町図書館で借りる	8	8%	21%
友だちに借りる	13	14%	36%
家にある本を読む	30	31%	56%

【入手方法としては、「買う・買ってもらう」が80%を超えています。次いで「家にある本を読む」が多く、小学生の調査結果と同様の傾向が見られます。しかし、学校の図書室や余市町図書館で借りる生徒の割合は、小学生に比べると低くなっており、中学生に向けた図書館の有用性を知ってもらう事業が必要と考えられる。】

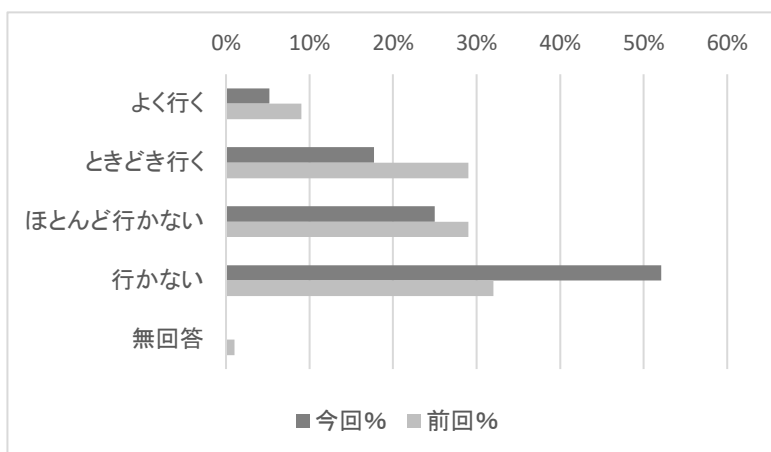
＜問5＞ 読みたい本をどのようにみつけますか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
インターネットで調べる	67	70%	55%
家の人に聞く	12	13%	20%
友達に聞く	22	23%	28%
自分でさがす	47	49%	59%
学校の先生に聞く	5	5%	2%
余市町図書館の人に聞く	2	2%	1%
書店に見に行く	46	48%	63%

【「インターネットで調べる」が70%、「書店に見に行く」が49%、「自分でさがす」が48%と多くの生徒が読みたい本を自分で探す傾向が見られます。それに対して「図書館の人に聞く」はごくわずかですが、より多様な本と出会うためには、本の展示以外にも、ブックトークを行うなどの工夫が必要だと考えられます。】

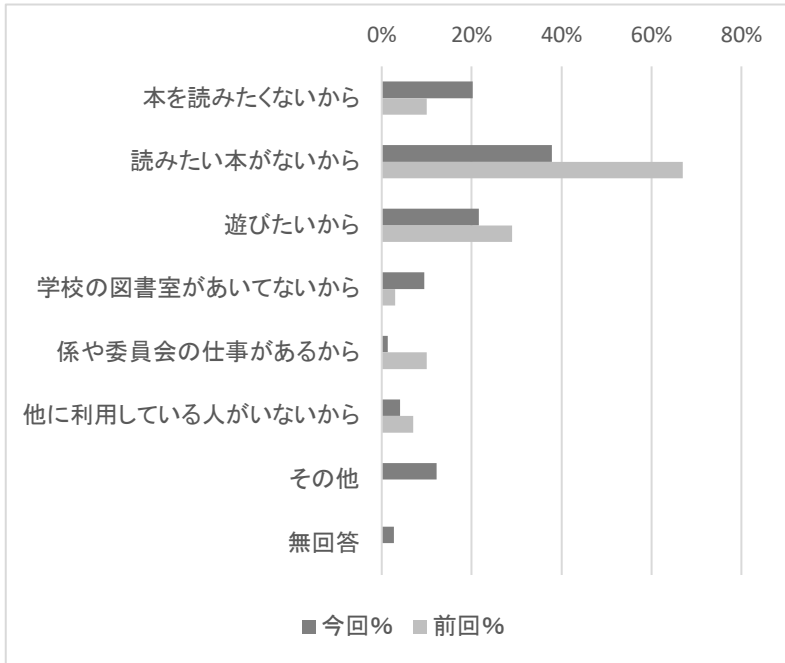
＜問6＞ 休み時間や放課後に学校の図書室へ行きますか。



項目	回答数	今回%	前回%
よく行く	5	5%	9%
ときどき行く	17	18%	29%
ほとんど行かない	24	25%	29%
行かない	50	52%	32%
無回答	0	0%	1%

【「行かない」(52%)「ほとんど行かない」(25%)を合わせて、80%弱の生徒学校図書室を利用していません。これは前回調査より割合が増えていることに加え、小学生の調査結果(58%)に比べても増加傾向が見られます。学校図書室へ図書館からの支援が必要と考えられます。】

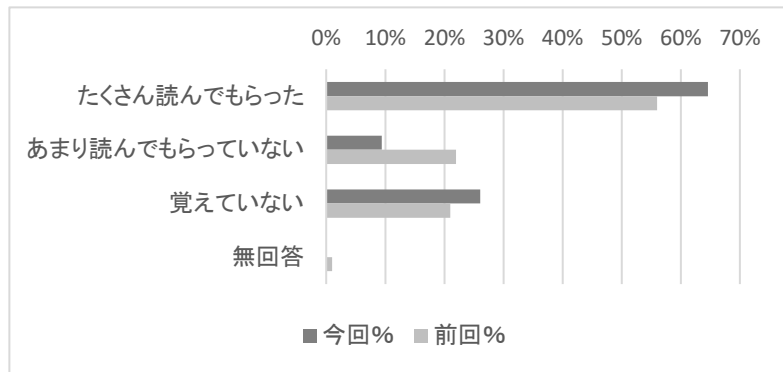
＜問7＞ 問6で「ほとんど行かない」「行かない」と答えた人だけにお聞きします。
学校の図書室に行かないのはなぜですか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
本を読みたくないから	15	20%	10%
読みたい本がないから	28	38%	67%
遊びたいから	16	22%	29%
学校の図書室があいてないから	7	9%	3%
係や委員会の仕事があるから	1	1%	10%
他に利用している人がいないから	3	4%	7%
その他	9	12%	0%
無回答	2	3%	0%

【行かない主な理由は「読みたい本がないから」「遊びたいから」が多く、学校図書室の利用率を上げるために、リクエスト制度を取り入れるなどの取組が必要と考えられます。】

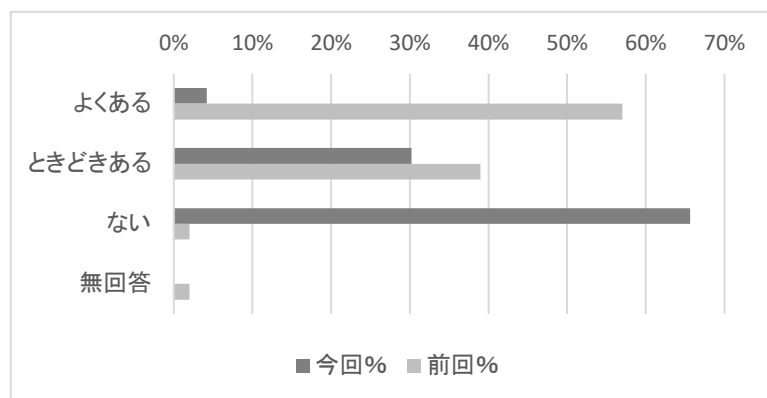
＜問8＞ 小さいころ、絵本の読み聞かせなどをしてもらったことはありますか。



項目	回答数	今回%	前回%
たくさん読んでもらった	62	65%	56%
あまり読んでもらっていない	9	9%	22%
覚えていない	25	26%	21%
無回答	0	0%	1%

【65%の生徒が、幼い頃に読み聞かせをしてもらったことを記憶しています。前回調査より割合が増加しており、小学生の調査結果でも同じ傾向が見られることから、読み聞かせが以前より定着してきていることがうかがえます。】

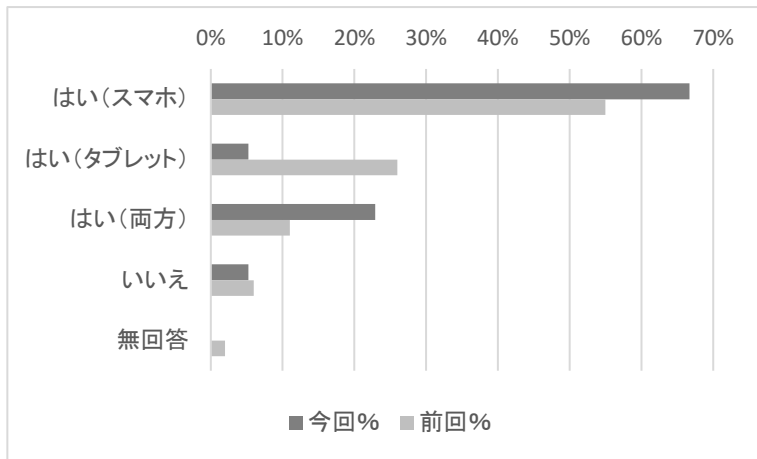
＜問9＞ 家族で本について話題になることはありますか。



項目	回答数	今回%	前回%
よくある	4	4%	57%
ときどきある	29	30%	39%
ない	63	66%	2%
無回答	0	0%	2%

【家族で本について話題になることがあるのは34%に過ぎず、小学生の調査結果（55%）より割合は減少傾向にあり、また前回調査と比較しても割合は大幅に減少しています。】

<問10> 自分のスマートフォンやタブレットを持っていますか。

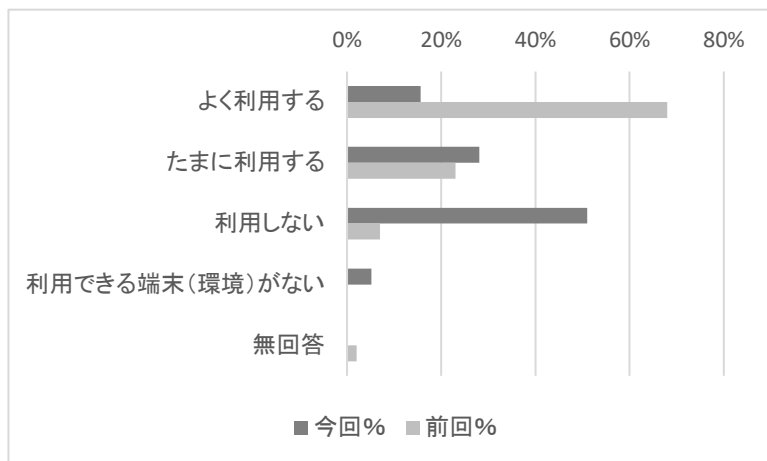


項目	回答数	今回%	前回%
はい(スマホ)	64	67%	55%
はい(タブレット)	5	5%	26%
はい(両方)	22	23%	11%
いいえ	5	5%	6%
無回答	0	0%	2%

※スマホの前回%は携帯とスマホの合計

【スマホ・タブレットのいずれかを所持しているのは95%に上り、前回調査より微増、また小学生(72%)よりもこれらの電子機器の普及が確実に進んでいることがうかがえます。】

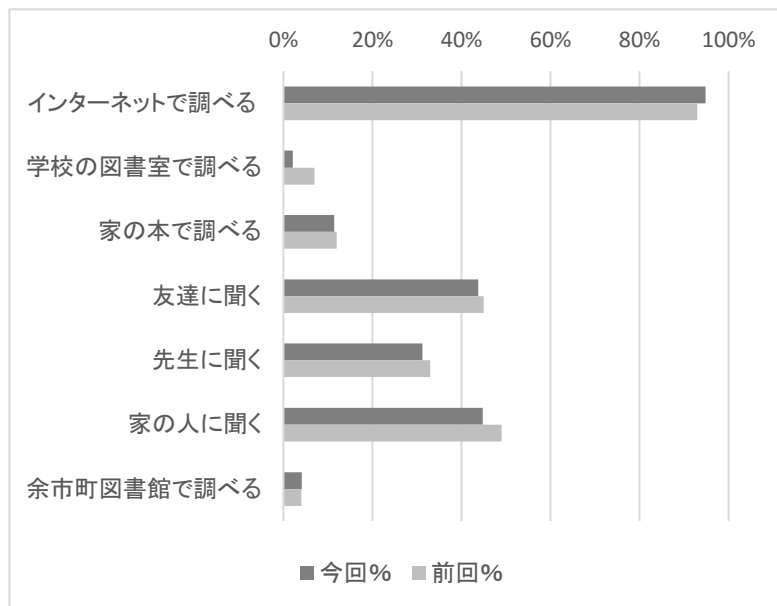
<問11> 電子書籍やWebで公開している小説などを利用しますか。



項目	回答数	今回%	前回%
よく利用する	15	16%	68%
たまに利用する	27	28%	23%
利用しない	49	51%	7%
利用できる端末(環境)がない	5	5%	-
無回答	0	0%	2%

【中学生の44%が電子書籍を利用していますが、前回調査(91%)よりも大幅に下がっています。しかし、問10の電子機器の所持率が増加傾向にあるのに対して、電子書籍の利用率が低下していることは、中学生にとって電子書籍はあまり興味の対象となっていないことを示しています。電子図書館の利用促進のため、電子書籍についての周知を充実させることが必要と考えられます。】

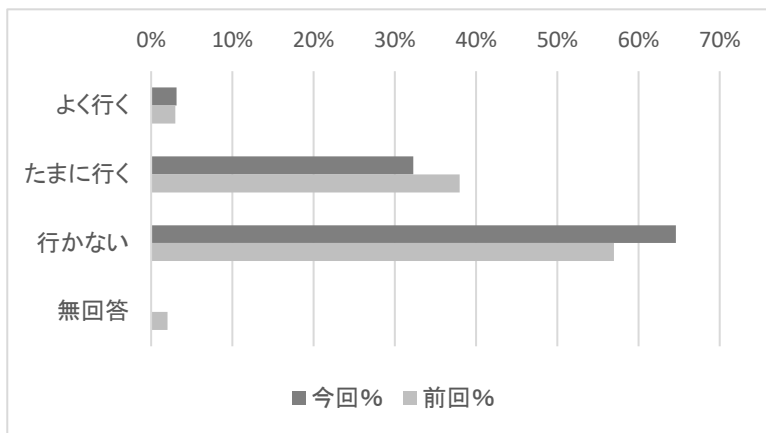
<問12> 知りたいことがあるとき、どうやって調べますか。(いくつでも)



項目	回答数	今回%	前回%
インターネットで調べる	91	95%	93%
学校の図書室で調べる	2	2%	7%
家の本で調べる	11	11%	12%
友達に聞く	42	44%	45%
先生に聞く	30	31%	33%
家の人に聞く	43	45%	49%
余市町図書館で調べる	4	4%	4%

【「インターネットで調べる」が95%と高い割合を示しており、次いで「家の人に聞く」「友達に聞く」の割合が高く、学校の図書室や図書館などを利用して本で調べるのは低い割合にとどまる。本の有用性や、より信憑性の高い確実な情報はどこで得られるのかなどについて学習会や啓発活動も必要と思われます。】

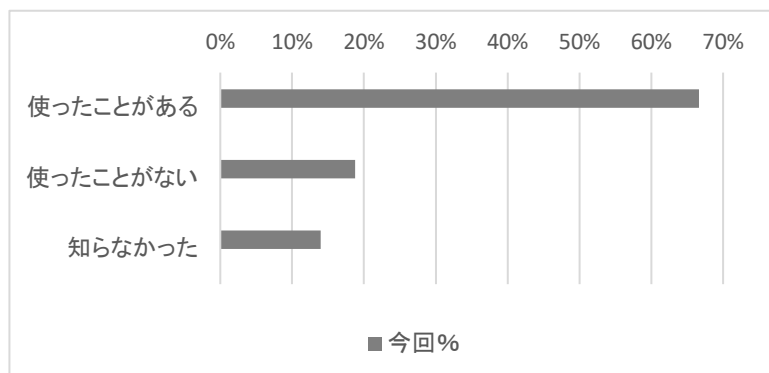
＜問 1 3＞ 余市町図書館へ行きますか。



項目	回答数	今回%	前回%
よく行く	3	3%	3%
たまに行く	31	32%	38%
行かない	62	65%	57%
無回答	0	0%	2%

【「よく行く」「たまに行く」を合わせた35%の生徒が図書館を利用していますが、前回調査より割合は若干減っています。部活や塾などで放課後や休日也多忙な中、図書館を利用している生徒が少なからずいることが分かりましたが、小学生の調査結果（56%）に比べると、図書館の利用率は下がっています。】

＜問 1 4＞ 余市町電子図書館を使ったことはありますか。



項目	回答数	今回%	前回%
使ったことがある	64	67%	-
使ったことがない	18	19%	-
知らなかった	14	14%	-

【34%の生徒が「使ったことがない」あるいは「知らなかった」と回答していますが、小学生の調査結果（52%）に比べると、電子図書館の利用率は上がっていることが分かります。】

＜問 1 5＞ 余市町図書館にあつたらいいと思うものはなんですか。
（自由に書いてください）

＜余市町図書館についての自由記述の一部＞

- ・勉強をする専用のスペースがほしい
- ・蛍光灯の音がうるさい
- ・マンガ、ライトノベルや怖い本がほしい
- ・カフェをつくって欲しい
- ・夏は暑いのでエアコンが欲しい

中学生からは、「蛍光灯の音の改善」「エアコンがほしい」「カフェや食べ物のコーナー」など、施設面に関する要望が多くありました。蛍光灯の音については以前より利用者から指摘があり、LED照明への更新が必須となっています。空調設備については、熱中症予防の観点からエアコンの設置が急務と考えなければなりません。また「勉強専用のスペース」や「個室」を求める声もありました。

その他、「調べものについての要望」「映画の種類を増やして欲しい」「本の紹介ポスターの掲示」などの要望がありました。

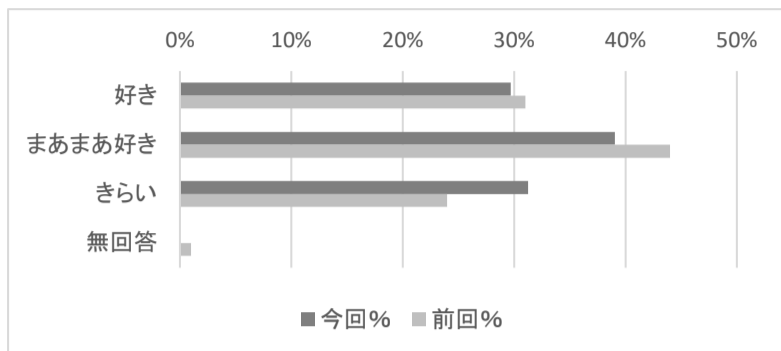
中学生は、図書館に「静かに本が読める場所」としての機能の他に、「勉強やパソコンでの作業が快適にできる場所」としての機能も求めていることが分かりました。

「読書アンケート調査」集計結果 余市町子どもの読書 アンケート調査（高校生）

※回答を「いくつでも」としている項目については、合計回答数がアンケート回答者数より多くなっている場合があります。％表示については、回答数ではなくアンケート回答者数（64人）を分母としているので、合計は100%を超える場合があります。

※前回調査 令和2年実施

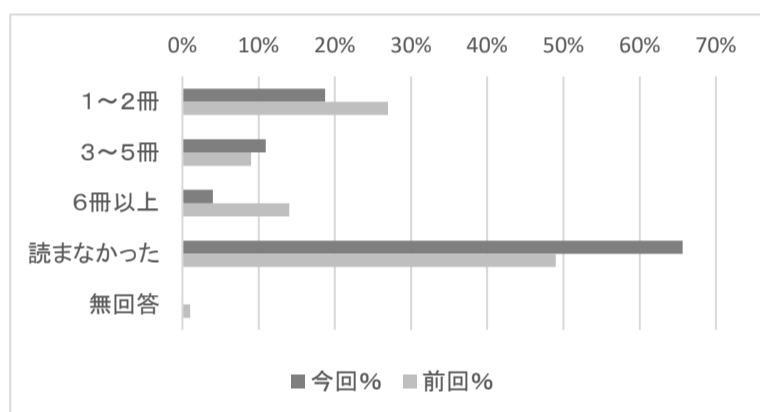
<問1> あなたは本を読むのが好きですか。



項目	回答数	今回%	前回%
好き	19	30%	31%
まあまあ好き	25	39%	44%
きらい	20	31%	24%
無回答	0	0%	1%

【「好き」（30%）と「まあまあ好き」（39%）を合わせた69%の生徒が読書が好きという傾向が表れていますが、小学校（92%）、中学校（81%）と比べると、年齢が上がるにつれ読書離れが進んでいることが分かります。】

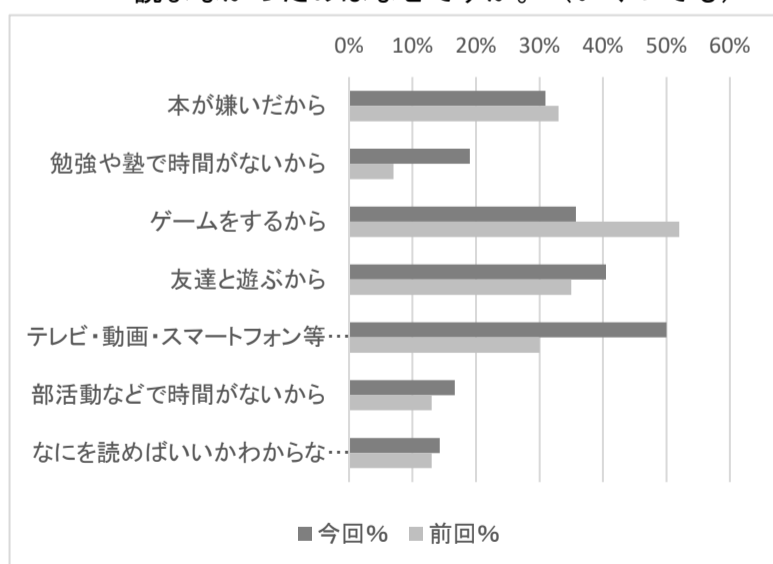
<問2> この1ヶ月で、なん冊くらい本を読みましたか。 (教科書・マンガ・雑誌以外で)



項目	回答数	今回%	前回%
1~2冊	12	19%	27%
3~5冊	7	11%	9%
6冊以上	3	4%	14%
読まなかった	42	66%	49%
無回答	0	0%	1%

【1ヶ月で1冊以上の本を読んだ割合はわずか34%、小学生（84%）、中学校（80%）から大幅に低下しています。また、問1の読書が「好き」「まあまあ好き」を合わせた69%と読書率34%との差が小・中学生より顕著に表れています。読書は好きであるが、結果的に本を読んでいる生徒が相当数存在することが分かります。】

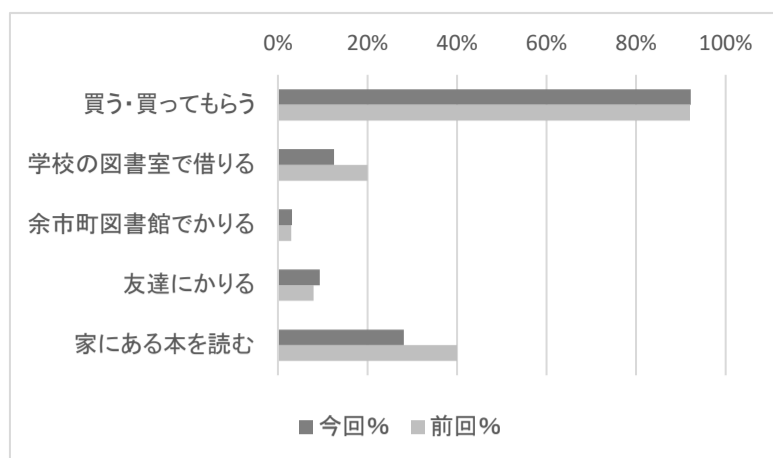
<問3> 問2で「読まなかった」と答えた人だけにお聞きします。 読まなかったのはなぜですか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
本が嫌いだから	13	31%	33%
勉強や塾で時間がないから	8	19%	7%
ゲームをするから	15	36%	52%
友達と遊ぶから	17	40%	35%
テレビ・動画・スマートフォン等... 等を見て時間がないから	21	50%	30%
部活動などで時間がないから	7	17%	13%
なにを読めばいいかわからなかったから	6	14%	13%

【「テレビ・動画等を見て時間がない」「友だちと遊ぶ」「ゲームをする」の割合が高く、中学生よりも小学生に近い「遊びや娯楽」を優先するという傾向が見られました。「本が嫌い」の割合（31%）はやや高いが、「なにを読めばいいかわからなかった」は14%、小学生（29%）、中学生（42%）に比べ低い割合となっています。本を読まない生徒に対する働きかけが必要と考えられる。】

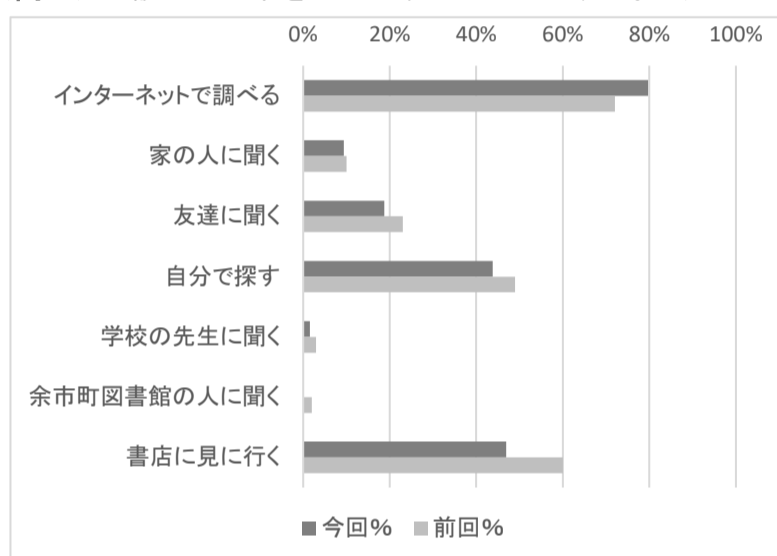
＜問4＞ 読みたい本はどのように手にいれますか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
買う・買ってもらう	59	92%	92%
学校の図書室で借りる	8	13%	20%
余市町図書館で借りる	2	3%	3%
友達にかりる	6	9%	8%
家にある本を読む	18	28%	40%

【入手方法としては、「買う・買ってもらう」が90%を超えており、次いで「家にある本を読む」が多く、小・中学生と同様の傾向が見られます。また、学校の図書室や余市町図書館で借りる生徒の割合は、小・中学生に比べると低くなっており、年齢が上がるにつれて、図書館（室）に足が向かなくなる傾向が強くなることが分かります。】

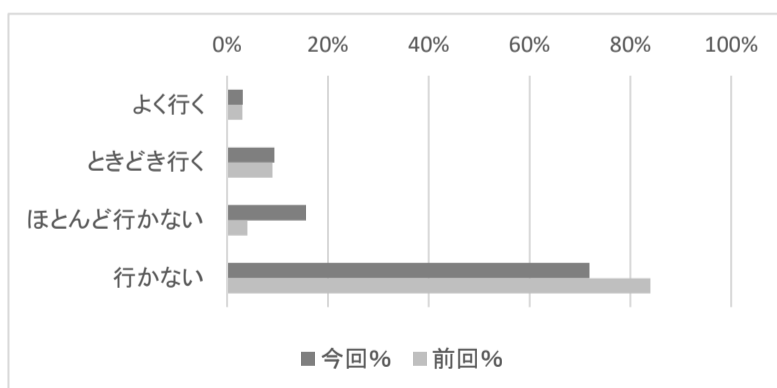
＜問5＞ 読みたい本をどのようにみつけますか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
インターネットで調べる	51	80%	72%
家の人に聞く	6	9%	10%
友達に聞く	12	19%	23%
自分で探す	28	44%	49%
学校の先生に聞く	1	2%	3%
余市町図書館の人に聞く	0	0%	2%
書店に見に行く	30	47%	60%

【「インターネットで調べる」が80%、「書店に見に行く」が47%、「自分でさがす」が44%で、中学生と同じく多くの生徒が自分で読みたい本を探ることが分かります。それに対して「図書館の人に聞く」は0%と、問4でも見られた年齢が上がるのに伴い図書館離れが進む傾向を示しており、幼児、小学生の段階での底上げと各年代に合わせた情報提供やサポートが必要と考えられる。】

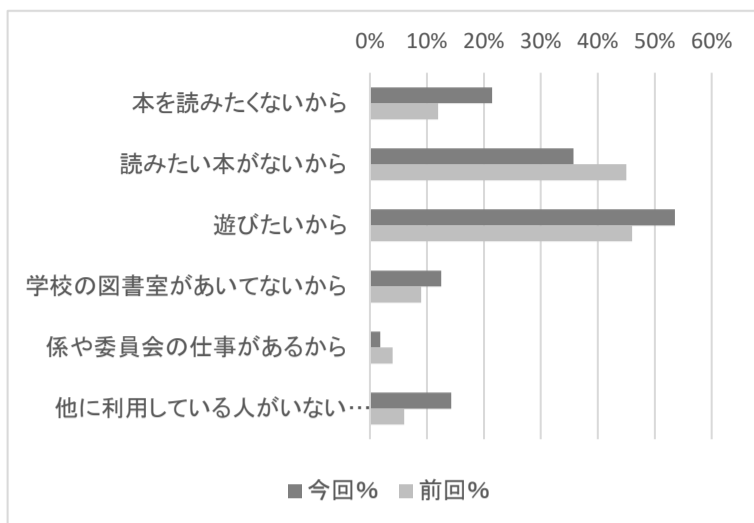
＜問6＞ 休み時間や放課後に学校の図書室へ行きますか。



項目	回答数	今回%	前回%
よく行く	2	3%	3%
ときどき行く	6	9%	9%
ほとんど行かない	10	16%	4%
行かない	46	72%	84%

【「行かない」（72%）「ほとんど行かない」（16%）を合わせて88%となり、前回調査と傾向は変わらず、学校図書室を限られた生徒しか利用していません。ここでも年齢とともに図書館（室）離れが顕著になることが分かります。】

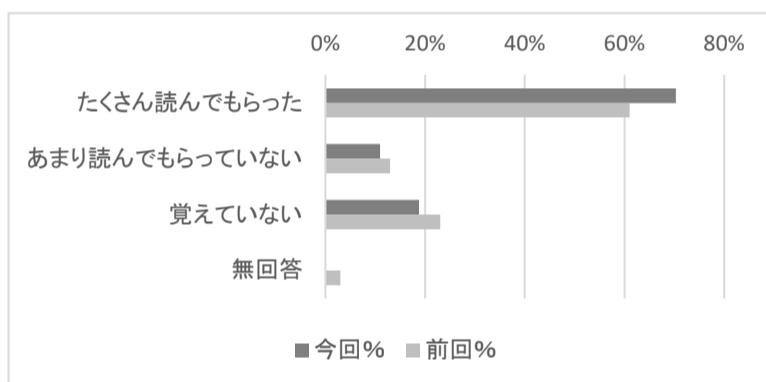
＜問7＞ 問6で「ほとんど行かない」「行かない」と答えた人だけにお聞きします。
学校の図書室に行かないのはなぜですか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
本を読みたくないから	12	21%	12%
読みたい本がないから	20	36%	45%
遊びたいから	30	54%	46%
学校の図書室があいてないから	7	13%	9%
係や委員会の仕事があるから	1	2%	4%
他に利用している人がいないから	8	14%	6%

【行かない主な理由は「遊びたいから」が最も多く、次いで「読みたい本がないから」となっている。学校図書室の利用率を少しでも上げるために、リクエスト制度を取り入れ、余市町図書館が協力するなどの取組が必要と考えられます。】

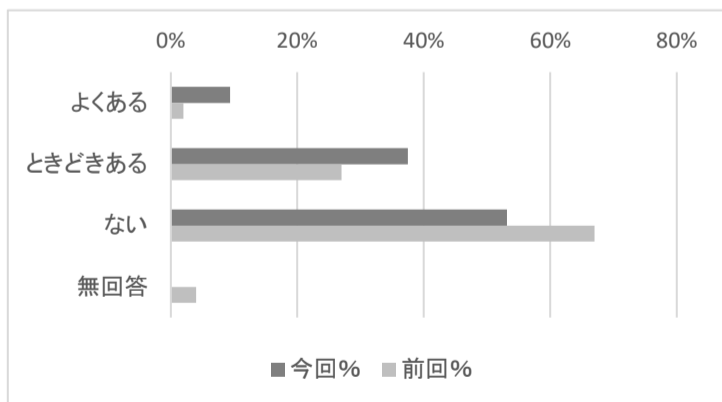
＜問8＞ 小さいころ、絵本の読み聞かせなどをしてもらったことはありますか。



項目	回答数	今回%	前回%
たくさん読んでもらった	45	70%	61%
あまり読んでもらっていない	7	11%	13%
覚えていない	12	19%	23%
無回答	0	0%	3%

【70%の生徒が、幼い頃に読み聞かせをしてもらったことを記憶している。前回調査より割合が増えており、小・中学生の調査結果とも合わせ、読み聞かせが着実に定着していると考えられます。】

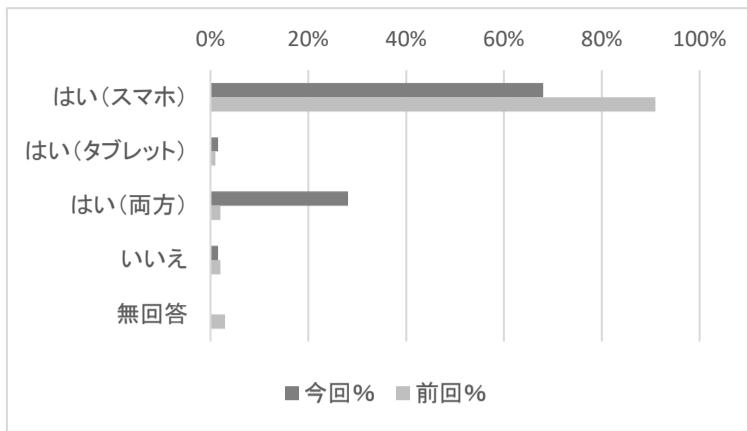
＜問9＞ 家族で本について話題になることはありますか、



項目	回答数	今回%	前回%
よくある	6	9%	2%
ときどきある	24	38%	27%
ない	34	53%	67%
無回答	0	0%	4%

【家族で本について話題になることがあるのは47%、前回調査より割合は増加しており、中学生の調査結果（34%）を上回り小学生の調査結果（55%）に近い数字を示しています。】

<問10> 自分のスマートフォンやタブレットを持っていますか。

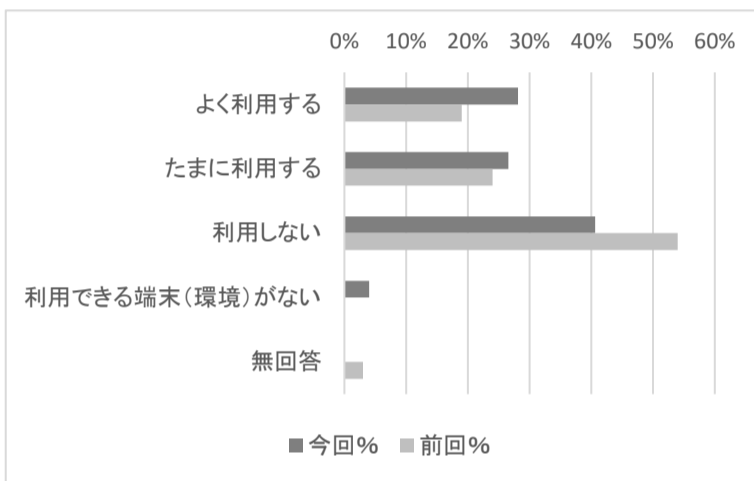


項目	回答数	今回%	前回%
はい(スマホ)	44	68%	91%
はい(タブレット)	1	2%	1%
はい(両方)	18	28%	2%
いいえ	1	2%	2%
無回答	0	0%	3%

※スマホの前回%は携帯とスマホの合計

【98%の生徒がスマホ・タブレットのいずれかを所持しており、前回調査より微増、小学生（72%）、中学生（95%）と年齢とともに電子機器がより身近なものになっていくことがうかがえます。】

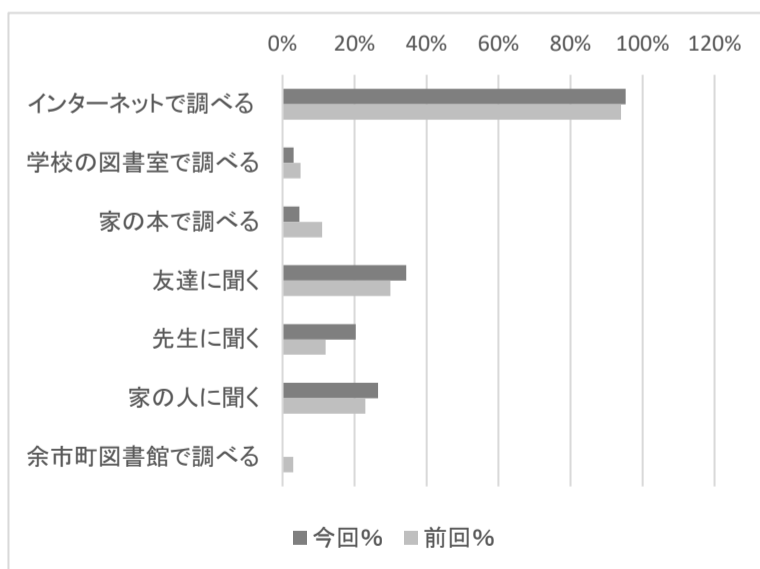
<問11> 電子書籍やWebで公開している小説などを利用しますか



項目	回答数	今回%	前回%
よく利用する	18	28%	19%
たまに利用する	17	27%	24%
利用しない	26	41%	54%
利用できる端末(環境)がない	3	4%	-
無回答	0	0%	3%

【高校生の55%が電子書籍を利用しており、前回調査（43%）よりも利用割合は上がっています。しかし、問10の電子機器の所持率（98%）に対して、電子書籍等の利用率はさほど高くないことから、高校生にとって電子書籍はまだ一般的ではないようですが、さらなる電子書籍についての周知を行うにより電子図書館の利用拡大につながる可能性があると考えられます。】

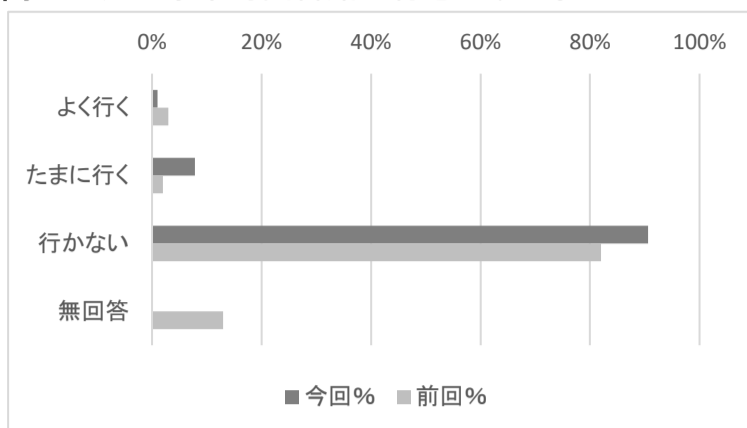
<問12> 知りたいことがあるとき、どうやって調べますか。（いくつでも）



項目	回答数	今回%	前回%
インターネットで調べる	61	95%	94%
学校の図書室で調べる	2	3%	5%
家の本で調べる	3	5%	11%
友達に聞く	22	34%	30%
先生に聞く	13	20%	12%
家の人に聞く	17	27%	23%
余市町図書館で調べる	0	0%	3%

【「インターネットで調べる」が95%と高い割合を示しており、次いで「友達に聞く」「家の人に聞く」の割合が高いのに対して、学校の図書室や余市町図書館などを利用して本で調べる割合は極めて低く、後者に至っては0%という結果でした。インターネットと比較しての「本で調べる」ことのメリットなどについて学習会や啓発活動も必要と思われます。】

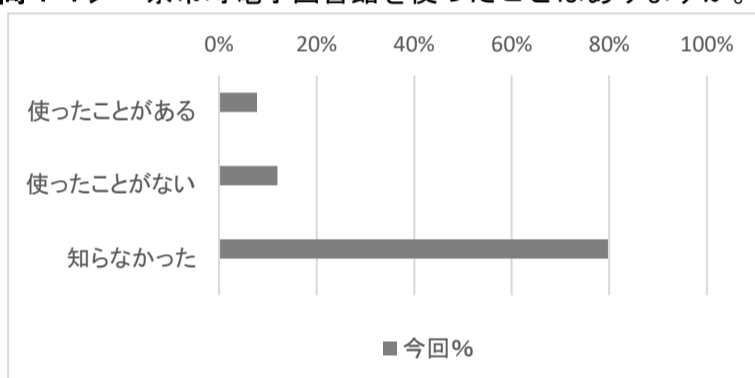
＜問 1 3＞ 余市町図書館へ行きますか。



項目	回答数	今回%	前回%
よく行く	1	1%	3%
たまに行く	5	8%	2%
行かない	58	91%	82%
無回答	0	0%	13%

【「よく行く」「たまに行く」を合わせたわずか10%の生徒しか図書館を利用していないことが明らかになりました。利用率は前回調査より若干増えており、小・中学生より多忙と思われる中、図書館を利用している生徒がわずかでもいることが分かりましたが、小学生（56%）中学生（35%）と年齢とともに利用率が下がっています。】

＜問 1 4＞ 余市町電子図書館を使ったことはありますか。



項目	回答数	今回%	前回%
使ったことがある	5	8%	-
使ったことがない	8	12%	-
知らなかった	51	80%	-

【大半の生徒（93%）が「使ったことがない」あるいは「知らなかった」と回答しており、特に「知らなかった」が80%と小学生（29%）中学生（15%）に比べ大幅に増えています。これは問2・問13と深く関わっており、「本を読まない⇒図書館へ行かない⇒電子図書館を知らない」という図式が見えてきます。本の不読率を下げるのが図書館利用率を上げ、さらには電子図書館の利用につながると考えられます。】

＜問 1 5＞ 余市町図書館にあつたらいいと思うものはなんですか
（自由に書いてください）

＜余市町図書館についての自由記述の一部＞

- ・勉強できるスペースと、少し遊べる場所がほしい
- ・実写映画の原作が欲しい
- ・エアコン、クーラーの効いた部屋が欲しい
- ・ホラー系やミステリー系の本が欲しい
- ・漫画がほしい

高校生からは、「勉強できる場所が欲しい」「クーラー・エアコンがほしい」など、施設面に関する要望がありました。空調設備については、熱中症予防の観点からエアコンの設置が急務と考えなければなりません。また「少し遊べる場所」を求める声も上がっています。その他には「マンガを置いて欲しい」、「ホラー系やミステリー系の本が欲しい」、などの蔵書に関わる要望がありました。高校生は、図書館に「本が読める場所」としての機能の他に、「勉強を快

【現場担当者アンケート】

※学校、保育所（園）・幼稚園・他施設の各担当者にインターネットによる任意による回答を依頼しました。以下は、町内小学校4校、中学校3校、高校2校及び幼稚園3園・保育所（園）3所・他施設2所の結果です。

●小学校 4校、中学校 3校、高校 2校

（そのうち、小学校3校、中学校1校、高校2校、全6人が回答）

- 問1・問2 「余市町子どもの読書活動推進計画があることを知っていますか」という問いには、2校が「知っている」と回答しました。しかし、「現場に変化がありましたか」という問いでは、1校が変化は無かったと答えています。
- 問3 「読書活動は盛んに行われていますか」という問いには、4校が盛んに行われていると答えており、3校が小学校。1校が中学校で、5年前と比較し2校減少しました。
- 問4 「どのような読書活動が行われていますか」という問いでは、「全校一斉読書」が4校、教員やボランティアによる「読み聞かせ」が4校、「読み聞かせ」、「読書にかかるイベントの実施」、「読書感想文、感想画の取組み」となっています。
- 問5 「全校一斉読書」を行っているとした4校に、どの時間帯に行っているかを問うと、始業前の朝読書を行っているとした。
- 問6 「全校一斉読書」を行っていない学校に理由を問うと、「時間が確保されていない」との理由でした。
- 問7 「学校図書室はよく利用されていますか」という問いでは、「よく利用されている」「利用されている」が3校、「利用されていない」が3校という回答でした。
- 問8 「よく利用されている」「利用されている」と答えた学校の理由では、「学校図書室が利用しやすいから」、「教職員が勧めているから」、「本がたくさんあるから」「友達同士で誘い合っているから」と回答しています。
- 問9 「利用されていない」と答えた学校の理由では、「学校図書室が利用しづらい」「図書委員を中心に利用促進の取組みをしているがなかなか利用者が増加しない」という理由があげられています。
- 問10 「学校図書室の利用を増やす取組み」として、「おすすめ本の紹介」「新刊図書コーナーの設置」「図書委員、学習委員と連携しての利用促進の取組み」などが行われています。図書委員、学習委員との連携では「図書のPOPづくり」「おすすめ図書の紹介」などの回答がありました。
- 問11・問12 「団体貸出を利用したことがありますか」という問いでは、3校が利用したことがある、3校は利用したことがないという結果になり、「利用しないのはなぜ」という問いでは、回答した全ての学校が「団体貸出の制度を知らなかったから」と答えています。
- 問13 図書館に対する要望としては、「本の貸し出し」や「ブックイベント」の実施に関するものがありました。

●幼稚園3園・保育所(園)3所・他施設2所

(そのうち、幼稚園1園・保育所(園)3所・他施設2所、全17名回答)

- 問1・問2 「余市町子どもの読書活動推進計画があることを知っていますか」という問いには、1名のみが「知っている」と回答、「現場に変化がありましたか」という問いには、「移動図書館を利用させていただき、保育士が様々な絵本に出会えるようになった」と答えています。
- 問3・問4 「施設内に図書コーナーや本棚を備えた場所がありますか」という問いには、すべての施設が「ある」と答えています。「施設内の図書は幼児や保護者に貸出しをしていますか」という問いには、施設内でのみの利用がほとんどでしたが、3施設は貸出しも行っていると答えています。
- 問5 「現在どのような読書活動をしていますか」の問いには、すべての施設で「絵本や紙芝居などの読み聞かせの実施」と答え、次いで「本の紹介や斡旋」という回答が多くありました。
- 問6 「読み聞かせは誰がしていますか」という問いには、すべての施設が「先生や保育士」と答えています。また、「保護者」と答えている施設もありました。
- 問7 「読み聞かせの頻度」の問いには、全施設担当者が「毎日」もしくは「2・3日に一度」と答えています。
- 問8 「読み聞かせについて大切だと思いますか」という問いには、全施設担当者が「非常に大切だと思う」「大切だと思う」と答えています。
- 問9 「読み聞かせに使う本や紙芝居はどのように手に入れていますか」という問いには、すべての施設で「自分の施設にあるものを使う」の他に、「購入する」、「余市町図書館から借りる」「職員の私物を使う」という答えがありました。
- 問10・問11 「団体貸出しを利用したことがありますか」という問いには、5人の担当者が利用したことがあると回答があったのに対して、利用したことがない担当者も5名おり、担当者によって差があることが見てとれます。また「利用しないのはなぜ」という問いでは、「団体貸出の制度を知らなかった」が一番多く、「忙しいから」「間に合っているから」という回答もありました。
- 問12 「絵本の読み聞かせ以外で実施していることがありましたらお聞かせください」という問いには、「パネルシアター」「ペープサート」「エプロンシアター」「手遊び」「童歌遊び」などを実施していると答えています。
- 問13 余市町図書館に対する要望として、以下の3つの意見がありました。
- ① 出張読み聞かせに来てほしい
 - ② 世界各国の絵本をたくさん取り揃えてほしい
 - ③ 新しい本を増やしてほしい

現場担当者アンケートについては、小・中・高校・幼稚園・保育所(園)の各担当者に依頼したが、初めてインターネットによる調査となったため、従来の用紙配付による調査に比べ、回答率が低くなったことから、次回調査においては、回答率向上に向けた工夫が必要と考えております。

【学校教諭アンケート】

※今回の調査から各小中高校の教諭にインターネットによる任意による回答を依頼しました。以下は、町内小学校4校、中学校3校、高校2校の結果です。

●小学校 4校、中学校 3校、高校 2校の教諭が回答

- 問1・問2 「余市町子どもの読書活動推進計画があることを知っていますか」という問いには、78人の回答者のうち「知っている」32人に対し、「知らない」46人でした。「現場に変化がありましたか」という問いでは、回答した人のうち、変化は無かったと答えた人が多く、回答なしが多数を占めました。
- 問3 「読書活動は盛んに行われていますか」という問いには、「とても盛ん」「盛んに実施」が49人に対し、「あまり盛んではない」「盛んではない」が29人と、盛んに行われていると答えた方が多い結果となりました。
- 問4 「学校においてどのような読書活動が必要ですか」という問いでは、「全校一斉読書」「読み聞かせ」「おはなし会」「読書週間・月間の開催」「読書に係るイベントの開催」「読書感想文・感想画の取り組み」と6つの選択肢がほぼ満遍なく選択され、様々な取り組みが必要と考えている結果となりました。
- 問5 「あなたの在職する学校では、図書室を子どもたちはよく利用していますか」の問いについては、「よく利用されている」が9人、「利用されている」が37人に対し、「あまり利用されていない」が32人となりました。
- 問6 「よく利用されている」「利用されている」と答えた方に理由を問うと、「本がたくさんあるから」「友達同士で誘い合っているから」「教職員が勧めるから」との理由が挙げられ、一番回答が多かったのが「学校図書室が利用しやすいから」でした。(複数回答)
- 問7 「あまり利用されていない」と答えた方に理由を問うと、「読みたい本がないから」「学校図書室が利用しづらいから」などの回答がありました。(複数回答)
- 問8 「学校図書室の利用を増やすために必要なことがあれば教えてください」との問いには、「図書の充実」「POPづくり」など様々な意見がありました。
- 問9 「余市町図書館の団体貸出を利用したことがありますか」との問いには、「ある」と答えた人が42人、「ない」と答えて人が36人という結果でした。
- 問10 「問9であると答えた方に伺います。利用していかがでしたか」との問いには、「満足」「やや満足」との回答で、おおむね満足しているとの結果でした。
- 問11 「問9でないと答えた方に伺います。利用しないのはなぜですか(いくつでも)」との問いでは、「間に合っている」「団体貸出の制度を知らなかった」などの回答がありました。
- 問12 「子どもの読書離れについて、その影響はどこにあらわれていると感じますか(いくつでも)」の問いには、「読む能力」「聞く能力」「書く能力」「話す能力」「コミュニケーション能力」「言葉の乱れ」といった選択肢全てに影響があると回答がありました。
- 問13 「余市町図書館に対する要望」については、「新刊に関する要望」や「団体貸出に関する記述」が見られました。

パブリックコメントで寄せられた意見等に対する考え方

【件名】第3次余市町子どもの読書活動推進計画（素案）

※「ご意見等に対する余市町の考え方」のA～Eの区分は次のとおりです。

区分	意見等の反映状況
A	ご意見を受けて計画（素案）を修正したもの
B	計画（素案）とご意見等の趣旨が同様であるもの
C	計画（素案）を修正していないが、今後の施策の進め方等の参考とするもの
D	計画（素案）の運用にあたって参考となる情報提供
E	計画（素案）に対するご質問等

ご意見等の概要	ご意見等に対する余市町の考え方	区分
① 各学校の図書館が有効利用されるためには専門知識を持った司書の配置が不可欠であり、購入された本が配架まで時間を要するなど、本の管理事務は教職員の方々では間に合っていない現状があります。学校図書館司書を置くことを希望します。	ご意見のとおり、学校司書はとても重要な役割と認識しておりますが、現状で予算化は難しいため、余市町図書館の職員や地域ボランティアが連携し、学校との情報交換を行いながら、できる限り対応していきたいと考えております。	C
② 第4章 4 推進体系図 【具体的な取組み】に「蔵書のデータベース化」とありますが、受付カウンターにある蔵書検索システムのデータベースでは不十分、あるいは何か違いはあるのでしょうか。さらなるデータベース化にかかるお金があるなら、図書の購入などに充ててほしいと思います。同じく「バリアフリー対応資料の拡充」については、利用頻度がそれほど高くなければ、必要に応じて他の図書館から借りることで用は足りるのではないのでしょうか。	「蔵書のデータベース化」については、利用者の皆様にご不便をかけることがない限り、現行のシステムを使用していきたいと考えます。「バリアフリー対応資料の拡充」については、ご意見の通り、必要があれば他館との貸借にて対応し、要望にお応えしていきたいと思っております。	A

諮問書

余 教 社 号

令和7年12月26日

余市町社会教育委員の会議

委員長 金 澤 治 様

余市町教育委員会

教育長 前 坂 伸 也

第3次余市町子どもの読書活動推進計画案(令和8年度~令和12年度)
について (諮問)

社会教育法第17条第1項第2号の規定（社会教育委員の職務の内、「定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること」）に基づき、別添の第3次余市町子どもの読書活動推進計画案について貴会の意見を求めます。

余 社 委 第 1 号

令和8年1月16日

余市町教育委員会

教育長 前坂 伸也 様

余市町社会教育委員の会議

委員長 金澤 治

第3次余市町子どもの読書活動推進計画案について（答申）

令和7年12月26日付け余教社号により諮問のありました、第3次余市町子どもの読書活動推進計画案について、当会議で慎重に審議を行った結果、適当であると認め、下記の意見を付して答申します。

記

- 1 第3次余市町子どもの読書活動推進計画において掲げられた目標を着実に具現化するよう鋭意努力していただきたい。
- 2 近年、夏季において記録的な猛暑が続いていることから、余市町図書館の閲覧室に冷房設備を導入するなど、快適な読書環境の整備に努めていただきたい。

第3次余市町子どもの読書活動推進計画策定経過

年 月 日	策 定 経 過
令和7年 5月19日	余市町議会民生教育常任委員会に計画を策定する旨概要、スケジュール報告
5月21日	教育委員会5月定例会に計画を策定する議案を提出
6月16日	部長会議にかけて各担当部署への協力依頼
7月2日	庁舎内第1回策定作業部会開催、計画の概要とスケジュール協議
7月8日	余市町読書体験・読書感想文コンクール実行委員会に計画の策定概要説明と意見聴取協力依頼
7月9日	社会教育委員の会議に計画策定の諮問と答申の説明、協力依頼
7月15日～ 8月15日	町内小中高校及び保育所（園）・幼稚園等へ読書アンケート調査実施
7月22日	余市町図書館協議会に計画の概要とスケジュール説明、協力依頼
9月4日	庁舎内第2回策定作業部会開催、計画素案について意見聴取
10月9日	庁舎内第3回策定作業部会開催、アンケート集計結果と計画素案作成
10月22日	教育委員会10月定例会に計画素案・アンケート集計結果を報告、承認
10月28日	読書体験・読書感想文コンクール実行委員会に書面にて意見聴取依頼
11月7日	臨時図書館協議会に素案報告、意見聴取
11月11日	余市町議会民生教育常任委員会に素案報告、パブリックコメント実施予定報告
11月21日～ 12月20日	パブリックコメント実施
12月17日	教育委員会12月定例会にパブリックコメント中間結果報告、計画案決定及び諮問書の承認
12月26日	教育委員会教育長から社会教育委員長へ諮問 第3回社会教育委員の会議において計画案の協議。
令和8年 1月16日	社会教育委員長から教育委員会教育長へ答申
1月28日	教育委員会1月定例会において、答申書報告及び計画の決定
1月～2月	ホームページ並びに広報にてパブリックコメント結果について周知
2月13日	余市町議会民生教育常任委員会にパブリックコメント結果と計画を報告
2月20日	余市町図書館協議会にパブリックコメント結果と計画を報告
3月	第4回社会教育委員の会議に計画を報告、庁舎内作業部会に計画を報告
4月	計画について、町民及び関係機関へ周知

余市町子どもの読書活動推進計画

令和8年3月

発行 余市町教育委員会
北海道余市郡余市町朝日町26番地
TEL 0135-21-2138

編集 余市町教育委員会
社会教育課 余市町図書館
北海道余市郡余市町入舟町413番地
TEL 0135-22-6141